

齋院烏山遺跡 3 次調査 朝美辻遺跡 3 次調査

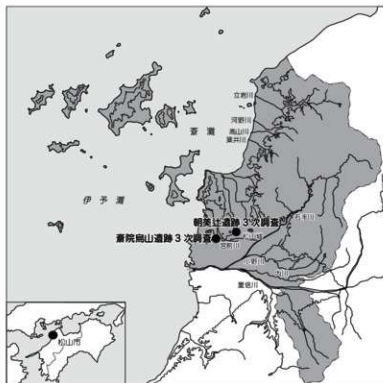
国庫補助市内遺跡発掘調査報告書

2019

松山市教育委員会
公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団
埋蔵文化財センター

さやからすやま
齋院烏山遺跡 3 次調査
あさみつじ
朝美辻遺跡 3 次調査

国庫補助市内遺跡発掘調査報告書



2019

松山市教育委員会
公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団
埋蔵文化財センター

序 言

本書は、平成 27 年度と平成 28 年度に松山市北斎院町と朝美一丁目で個人住宅建設に伴い国庫補助を受け実施した、斎院烏山遺跡 3 次調査、朝美辻遺跡 3 次調査の発掘調査報告書です。

本遺跡が所在する松山平野西部は、市内でも弥生時代から古墳時代の遺跡が密集している地区の一つです。独立丘陵の大峰ヶ台頂上部に位置する大峰ヶ台遺跡 4 次調査は、弥生時代中期の数少ない高地性集落の一つです。また、朝日谷 2 号墳は松山平野では最古級の前方後円墳で銅鏡や銅鏃、刻印のある鉄鏃など貴重な出土品があり重要な遺跡に数えられます。

今回の調査では、斎院烏山遺跡 3 次調査からは弥生時代の竪穴建物、溝、土坑を検出し、朝美辻遺跡 3 次調査からも溝、土坑などの集落関連遺構が確認され、特に斎院烏山遺跡 3 次調査から検出した特殊な炉は、市内でも類例の少ないものです。これは、当時の集落構造を解明するために欠かせない資料となりました。

このような成果を挙げることができましたのは、関係各位の埋蔵文化財に対する深いご理解とご協力の賜物であり、心より感謝を申し上げます。

最後になりましたが、本書が文化財保護意識の向上と埋蔵文化財調査研究の一助となり、松山市民の皆様をはじめ多くの方々にも末永く、ご活用いただければ幸いに存じます。

平成 31 年 3 月

松山市教育委員会
教育長 藤田 仁

例 言

1. 本書は、平成 27 年度と平成 28 年度に公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センター（以下、「公益財団」という。）が実施した、松山市北斎院町と松山市朝美一丁目における個人住宅建設に伴う国庫補助事業の発掘調査報告書である。
2. 各調査の概要は次のとおりである。
 - ・斎院烏山遺跡 3 次調査（松山市北斎院町 1219 番 2 の一部）
面積：519.5㎡ 平成 28 年度市内遺跡発掘調査事業（本格調査）
 - ・朝美辻遺跡 3 次調査（松山市朝美一丁目 1290 番 7）
面積：15.5㎡ 平成 27 年度市内遺跡発掘調査事業（本格調査）
3. 国庫補助による整理作業と報告書作成は、公益財団が松山市教育委員会（以下、「市教委」という。）から委託を受けて平成 29 年度に実施した。本書の編集作業は、同様に公益財団が市教委から委託を受け平成 30 年度に実施した。
4. 発掘調査は、公益財団の高尾和長が斎院烏山遺跡 3 次調査、山之内志郎が朝美辻遺跡 3 次調査を担当した。
5. 本書における遺構は、呼称名を略号化して記述した。
竪穴建物：S B、溝：S D、土坑：S K、柱穴：S P
6. 本書で使用した標高値は海拔標高を示し、座標は世界測地系座標である。
国土座標軸測量は、斎院烏山遺跡 3 次調査は株式会社エクセル調査設計に業務を委託した。
朝美辻遺跡 3 次調査は磁北である。
7. 遺構の測量は、調査員と調査担当者の指示のもと補助員と作業員が実施した。
8. 本書掲載の遺構図、遺物図は、スケール下に縮尺を表記した。
9. 本書報告の遺構埋土、土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖(1996)』に準拠した。
10. 遺物の実測及び掲載図の製図は、高尾の指示のもと田崎真理、池内芳美、木西嘉子、越智田美紀、が行った。
11. 屋外調査における写真撮影は調査担当者、本書掲載の遺物撮影は作田一耕が行い、図版作成は高尾が行った。
12. 本書に関する資料は、松山市立埋蔵文化財センターが保管・収蔵している。
13. 本書の執筆と編集は、高尾が行った。
14. 報告書抄録は、巻末に掲載している。
15. 本書における報告書の内容は、調査概要報告書、「年報 28」(2016 年刊行)と「年報 29」(2017 年刊行)を基に作成した。その内容に相違点がある場合、本書を持って訂正したものとす。

本文目次

第1章	はじめに	1	
第1節	調査に至る経緯		
	1. 斎院烏山遺跡3次調査	2. 朝美辻遺跡3次調査	
第2節	整理及び編集・刊行組織		
	1. 整理組織	2. 編集・刊行組織	
第3節	立地と環境		
	1. 地理的環境	2. 歴史的環境	
第2章	斎院烏山遺跡3次調査	7	
第1節	調査の経過と組織		
	1. 調査の経過	2. 調査組織	
第2節	調査の成果		
	1. 層位	2. 遺構と遺物	3. まとめ
第3章	朝美辻遺跡3次調査	33	
第1節	調査の経過と組織		
	1. 調査の経過	2. 調査組織	
第2節	調査の成果		
	1. 層位	2. 遺構と遺物	3. まとめ

挿図目次

第1章 はじめに

第1図 調査地と周辺遺跡分布図	6
-----------------	---

第2章 齋院烏山遺跡3次調査

第2図 調査地位置図	8
第3図 調査地位置図と周辺遺跡分布図	9
第4図 遺構配置図	10
第5図 SB1 測量図	12
第6図 SB1 出土遺物実測図	13
第7図 SB2 測量図	14
第8図 SB3 測量図	15
第9図 SK1 測量図・出土遺物実測図	16
第10図 SK4 測量図	17
第11図 SK5 測量図	17
第12図 SK5 出土遺物実測図	18
第13図 SD3 測量図	18
第14図 SD4 測量図	19
第15図 SD6 測量図	19
第16図 壺棺1 測量図	20
第17図 SK2・3 測量図・SK2 出土遺物実測図	21
第18図 SD2 測量図・出土遺物実測図	22
第19図 SD5 測量図・出土遺物実測図	23
第20図 出土地点不明遺物実測図(1)	24
第21図 出土地点不明遺物実測図(2)	25
第22図 試掘調査出土遺物実測図	25
第23図 トレンチ位置図・平面図	26
第24図 齋院烏山遺跡3次調査周辺遺跡遺構配置図	28

第3章 朝美辻遺跡3次調査

第25図 調査地周辺遺跡分布図	34
第26図 調査地位置図	35
第27図 調査地測量図	36
第28図 遺構配置図	37
第29図 SK101 測量図	38
第30図 SK204 測量図・出土遺物実測図	38

第31図	SD101 測量図	39
第32図	SD102・103 測量図	40
第33図	SD102 出土遺物実測図	40
第34図	SK201 測量図・出土遺物実測図	41
第35図	SK202・203 測量図	42
第36図	SK205 測量図	42
第37図	SP201 測量図・出土遺物実測図	43
第38図	出土地点不明遺物実測図	43

表目次

第1章 はじめに		
表1	調査地一覧	1
第2章 齋院烏山遺跡3次調査		
表2	時期区分一覧	27
表3	竪穴建物一覧	29
表4	土坑一覧	
表5	溝一覧	30
表6	壺棺一覧	
表7	SB1 出土遺物観察表 (土製品)	
表8	SK1 出土遺物観察表 (土製品)	31
表9	SK5 出土遺物観察表 (土製品)	
表10	SK2 出土遺物観察表 (土製品)	
表11	SD2 出土遺物観察表 (土製品)	
表12	SD5 出土遺物観察表 (土製品)	
表13	出土地点不明遺物観察表 (土製品)	32
表14	試掘調査出土遺物観察表 (土製品)	
第3章 朝美辻遺跡3次調査		
表15	土坑一覧	45
表16	溝一覧	
表17	SK204 出土遺物観察表 (土製品)	46
表18	SD102 出土遺物観察表 (土製品)	
表19	SK201 出土遺物観察表 (土製品)	
表20	SP201 出土遺物観察表 (土製品)	
表21	出土地点不明遺物観察表 (土製品)	

写真図版目次

第2章 斎院烏山遺跡3次調査

- 図版1 1. 調査前状況(西より)
2. 重機による掘削状況(南より)
3. 調査地遠景(南西より)
- 図版2 1. 西区 遺構検出状況(北東より)
2. 西区 遺構完掘状況(東より)
3. SB1 検出状況(西区)(北東より)
- 図版3 1. SB1 完掘状況(西区)(南西より)
2. SB1 遺物出土状況(南より)
3. SB1が①・②完掘状況(西より)
- 図版4 1. SB2・SK1・SD1 検出状況(西より)
2. SB2・SK1・SD1 完掘状況(北東より)
3. SB3 完掘状況(西区)(西より)
- 図版5 1. SK1 遺物出土状況(東より)
2. SK2・3 完掘状況(南西より)
3. SD2～4 完掘状況(東より)
- 図版6 1. SD5 完掘状況(北東より)
2. SD5 石出土状況(北西より)
3. SD5 遺物出土状況(北東より)
- 図版7 1. 壺棺1 検出状況①(東より)
2. 壺棺1 検出状況②(南西より)
3. 壺棺1 完掘状況(南西より)
- 図版8 1. 東区 遺構検出状況(西より)
2. 東区 遺構完掘状況(東より)
3. SB1 検出状況(東区)(西より)
- 図版9 1. SB1 完掘状況①(東区)(北西より)
2. SB1 完掘状況②(東区)(南より)
3. SB1 遺物出土状況(東区)(西より)
- 図版10 1. SB3 完掘状況(南より)
2. SK5 完掘状況(南より)
3. 作業風景(西より)
- 図版11 1. 出土遺物(SB1:1～7、SK1:8～12、
SK5:13～15、SK2:16、SD2:17、
SD5:18～20)
- 図版12 1. 出土遺物(出土地点不明:21～28・
30～34、試掘調査:35～38)

第3章 朝美辻遺跡3次調査

- 図版13 1. 調査前風景(北より)
2. 1区 遺構検出状況(北より)
3. 1区 遺構完掘状況(北より)
- 図版14 1. SD102・103 完掘状況(東より)
2. 2区 遺構検出状況(西より)
3. 2区 遺構完掘状況(西より)
- 図版15 1. 2区 西壁土層状況(東より)
2. SK205 桶材出土状況(南より)
3. 調査区 埋め戻し状況(南東より)
- 図版16 1. 出土遺物(SK204:1、SD102:2・3、
SK201:4～7、SP201:8、表採:9・10)

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

1. 齋院烏山遺跡3次調査

2016(平成28)年3月1日、松山市北齋院町1219番2の個人住宅建築にあたって埋蔵文化財の確認申込書が市教委へ提出された。当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地[№26 南齋院遺跡]内に位置し、主に弥生時代から古墳時代の集落跡として知られている。

これを受けた市教委は、申請地内における遺跡の有無を確認するため、公益財団に委託して平成28年3月8日に試掘調査を実施した。結果、古墳時代の遺構と弥生時代と古墳時代の遺物を確認し、当該地において遺跡が存在することが判明したため、これを申請者に通知するとともに保存について協議し、届出書と併せて愛媛県教育委員会(以下、「県教委」とする。)に進達した。その後、平成28年6月28日に県教委より埋蔵文化財を保護できない範囲について発掘調査の指示が下りたため、市教委は遺跡の取り扱いについて申請者及び関係者と協議し、平成28年11月16日から公益財団に委託して国庫補助による発掘調査を実施することとした。

2. 朝美辻遺跡3次調査

2015(平成27)年11月30日、松山市朝美一丁目1290番7における個人住宅建設にあたって、埋蔵文化財確認申込書が市教委へ提出された。当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地[№33 大峰ヶ台遺跡]内に位置し、主に弥生時代から中世の集落跡として知られている。

これを受けた市教委は、当該地における遺跡の有無とその範囲及び性格を判断するため、公益財団に委託し、平成27年12月18日に試掘調査を実施した。結果、古墳時代の遺物及び遺構を確認し、当該地において遺跡が存在することが判明したため、これを申請者に通知すると共に保存について協議し、届出書と併せて県教委に進達した。その後、平成28年1月18日に県教委より埋蔵文化財を保護できない範囲について発掘調査の指示が下りたため、市教委は、遺跡の取り扱いについて申請者及びその関係者と協議し、平成28年2月8日から公益財団に委託して国庫補助による発掘調査を実施することとした。

表1 調査地一覧

遺跡名	所在地	調査面積	屋外調査期間	整理作業期間
齋院烏山遺跡 3次調査	松山市北齋院町 1219番2の一部	519.5㎡	平成28年11月16日～ 平成29年2月7日	[出土物等整理] 平成29(2017)年9月1日～ 平成30(2018)年3月31日
朝美辻遺跡 3次調査	松山市朝美一丁目 1290番7の一部	15.5㎡	平成28年2月8日～ 平成28年2月12日	[報告書編集] 平成30(2018)年4月1日～ 平成30(2018)年10月30日

第2節 整理及び編集・刊行組織

1. 整理組織 [平成29年度]

松山市教育委員会	
事務局	局長 津田 慎吾 次長 家串 正治 次長 杉本 威
文化財課	課長 若江 俊二 主幹 越智 茂樹 主査 西村 直人
公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団	
事務局	理事長 中山 紘治郎 局長 中西 真也 次長兼総務部長 橋 昭司
文化振興部	部長 渡部 広明
埋蔵文化財センター	所長 村上 卓也 主査 梅木 謙一 主任 高尾 和長 (整理担当)

2. 編集・刊行組織 [平成30年度]

【刊行組織】	
松山市教育委員会	
事務局	局長 家串 正治 次長 高田 稔 次長 高木 伸治 次長 大本 光浩
文化財課	課長 沖広 善久 主幹 越智 茂樹
【編集組織】	
公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団	
理事長	中山 紘治郎 (前任、～5月29日)
理事長	本田 元広 (5月30日～)
事務局	局長 片山 雅央 次長兼総務部長 高木 祝二
文化振興部	部長 小田 克己
埋蔵文化財センター	所長 村上 卓也 考古館館長 梅木 謙一 主任 高尾 和長 (編集担当)
嘱託	作田 一耕 (写真担当)

第3節 立地と環境

1. 地理的環境

(1) 遺跡の立地

松山平野は四国山地北西部に位置し、石手川や重信川などの大小河川で形成された複合扇状地堆積物と沖積低地などで形成されている。このうち、石手川は高縄山地を水源とし、平野北東部を西進しながら、途中に重信川と合流する。石手川が形成した扇状地は、半径4kmに及ぶ。石手川扇状地は、古期扇状地面と新期扇状地面、さらには洪積世の段丘化した低位段丘面とに区分される。

この松山平野の西部に斎院地区と朝美地区は所在する。斎院地区は西方の伊予灘から2.5kmにある独立丘陵である弁天山の南東に位置する。朝美地区は弁天山の東1.0kmに位置する独立丘陵である大峰ヶ台丘陵の東に位置する。周辺の河川には、石手川支流の宮前川が大峰ヶ台丘陵の東から南へ迂回し弁天山と大峰ヶ台の間を抜けて北西に流れる。

2. 歴史的環境 (第1図)

ここでは、遺跡の所在する斎院地区と朝美地区(大峰ヶ台丘陵)、および周辺平野部の遺跡分布等を概観していく。斎院地区と大峰ヶ台丘陵には弥生時代以降の各期の遺跡が存在することが知られている。

(1) 縄文時代

大峰ヶ台丘陵：縄文時代の遺物は、同丘陵南麓直近にあって、古墳時代前期の井堰が出土し、断続的に11次までの調査が行われている古照遺跡の井堰を覆った洪水砂礫層中から、後期を中心として前期末～晩期の土器片の出土をみるが、遺物は石手川旧流路の氾濫に伴うものであって、該期の遺構に伴うものではない。また、同丘陵北東麓の朝美澤遺跡2次調査包含層中から少量の後期土器片が出土している。

斎院地区：縄文時代の遺構の検出もなく遺物も出土していない。

(2) 弥生時代

前期

大峰ヶ台丘陵：周辺部の微高地上で、弥生時代の遺構、遺物の出土が多くみられる。同丘陵上や裾部では中～後期のものを主体とし、前期の遺跡は周辺の微高地上に分布している。これら前期の遺跡の中でも、朝美澤遺跡2次調査第3層出土の板付Ⅱa式併行期の遺物群は、松山平野の弥生時代の遺物としては最古段階の遺物が出土した遺跡のひとつである。

斎院地区：弁天山丘陵上に形成する斎院烏山遺跡・斎院烏山遺跡2次調査からは二重に廻る環濠集落が検出され、環濠からは前期末の遺物が出土している。また、鳥越遺跡から前期末～中期初頭の土坑が検出されている。

中期

大峰ヶ台丘陵：大峰ヶ台遺跡4次調査として実施された丘陵頂上部の調査において、大型の円形竪穴住居・方形竪穴住居・掘立柱建物・段状遺構などの高地性集落が知られる。また、丘陵東麓で行われた大峰ヶ台遺跡6次調査や、さらに東方の朝美辻遺跡2次調査の西隣接した松山西部環状線に伴う大峰ヶ台Ⅱ遺跡の調査で、包含層遺物としての中期中葉の遺物の出土がある。近年では大峰ヶ台遺跡12次調査で溝から中期中葉の遺物が出土している。なお、現時点ではこれに続く中期後葉、凹線文期の遺跡はこの地域では確認されていない。

斎院地区：宮前川遺跡別府地区から集落関連遺構が検出され分銅形土製品1点が出土している。

後期

大峰ヶ台丘陵：遺跡数は増え、前述の大峰ヶ台遺跡6次調査では丘陵鞍部に投棄された状態で、器台形土器を多く含む後期中葉の土器群が出土し、また朝美澤遺跡1次調査では3基の壺棺墓が検出されている。

斎院地区：津田中学校構内遺跡1次調査からは多量の土器が出土し、大阪で作られた搬入品がある。斎院烏山遺跡、斎院烏山遺跡2次調査、鳥越遺跡では、土錘や石錘を多数伴った後期後半の火災住居の検出をはじめとして、多量の土器群が出土している。その中には搬入品の高松平野で作られた土器がある。

(3) 古墳時代

調査地周辺には、大峰ヶ台をはじめとして、岩子山、弁天山等の丘陵上に古墳が多く分布している。

大峰ヶ台丘陵：大峰ヶ台丘陵北西面には、当平野最古の前方後円墳朝日谷2号墳があり、主体部粘土床から2面の舶載鏡、40本を越える銅鏃・鉄鏃や鉄剣、ガラス玉等を出土している。また、西斜面で行われた大峰ヶ台遺跡9次調査では、大池東古墳群として5世紀末～6世紀初頭の円墳群や、横穴式石室を主体部とする後期古墳群が調査されており、円墳群からは形象埴輪を含む埴輪類の出土がみられている。この丘陵には、そのほかにも横穴式石室を主体部に持つ後期古墳が多く分布しており、朝日谷1号墳や、大峰ヶ台遺跡3次調査・同5次調査で確認された客谷古墳群といった6世紀後半～7世紀前半を主体とした円墳の調査が行われている。古墳以外には、南方に古照遺跡や松環古照遺跡、古照ゴウラ遺跡などがある。また、大峰ヶ台丘陵東の低地、宮前川左岸にある辻町遺跡1・2次調査からは後期の祭祀関連遺構が検出され、大峰ヶ台遺跡8次調査（辻遺跡2次調査）、大峰ヶ台II遺跡では掘立柱建物が発見されている。

斎院地区：集落では津田中学校構内遺跡1次調査と岩子山遺跡内から住居跡が発見されている。

古墳では弁天山古墳から箱式石棺を主体部にもち、石棺からは青銅鏡が2面出土している。また、津田山古墳からも箱式石棺と青銅鏡1面が発見されている。斎院地区の東側丘陵には御座所古墳群と岩子山古墳群、西側丘陵には弁天山古墳群が形成される。このうち岩子山古墳からは人物埴輪や馬形埴輪が出土している。

(4) 古代

大峰ヶ台丘陵：朝美澤廃寺遺跡の調査によって平安時代の寺跡の一部が発見され、澤庵寺と命名された。そのほか、11世紀後半の朝美澤遺跡1次・同2次調査では7世紀～8世紀中頃の掘立柱建物3棟を発見している。南江戸客谷遺跡では9～10世紀の集落関連遺構が発見されている。朝美澤遺跡2次調査では、10世紀以降の掘立柱建物が発見されている。

斎院地区：南斎院土居北遺跡から出土した遺物には、土師器・土器・皿の他に、緑釉陶器・越州窯青磁碗・布目瓦などの古代の寺院や役所との関連を想定される遺物が発見されている。

(5) 中世

大峰ヶ台丘陵：中世以降になるとこの地域では、一気に遺跡の増加が見られる。前述の松山西部環状線に伴う大峰ヶ台丘陵北東麓部から南東部の調査によって中世の水田址・集落・墓等が見つかり、

また、南江戸圃目遺跡、古照遺跡上層部において多量の土師器・瓦器・須恵器が出土しており、これらの遺物は松山平野の中世土器編年の基準資料となっている。そのほか、集落遺跡とともに大峰ヶ台遺跡8次調査や辻町遺跡2次調査などでは中世墓の検出がなされており、集落内での墓域が中世から近世まで継続的に使用されている。

齋院地区：北齋院地内遺跡1～3次調査からは15～16世紀の集落の広がりを確認している。北齋院地内遺跡4次調査から区画溝・建物・井戸・墓の集落遺構が検出され、出土遺物には出土例の少ない風炉があり注目される遺跡である。南齋院土居北遺跡からは一辺が50m、溝幅約3mを測る方形の居館跡が見つかり館内には井戸と掘立柱建物に伴う柱穴が多数検出された。館外には井戸・墓・溝・土坑・柱穴などが多数検出された。特に井戸は石組みのものと素掘りのものがあり、いずれも曲げ物を伴っている。墓は人骨が検出され伸展葬と屈葬があり、頭骨だけを埋葬したものもある。

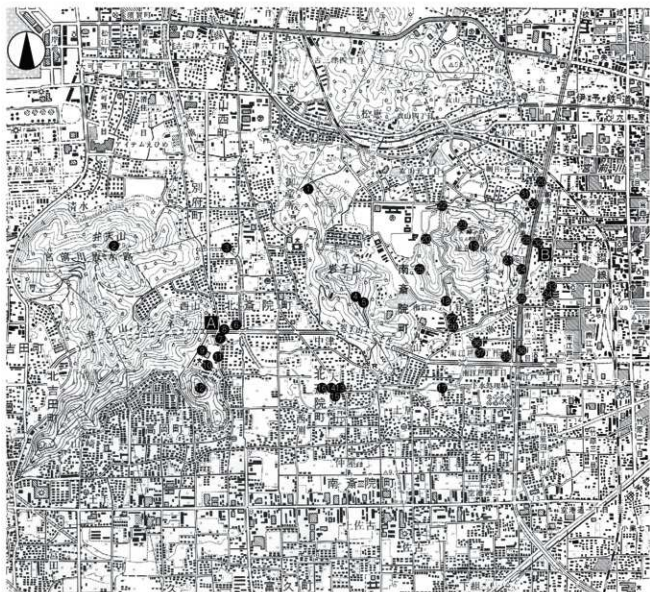
(6) 近世

大峰ヶ台丘陵：近世の遺構では、墓を主体に調査が行われている。同丘陵東南麓の南江戸桑田遺跡は近世墓地で、11基の桶棺墓、1基の箱棺墓や、その他土壙墓が検出されている。

齋院地区：北齋院地内遺跡では、墓や掘立柱建物を中心とした遺構群が検出され、集落内での墓域、生活域といった集落変遷の一端が窺える資料が確認されている。

【参考文献】

- 相原 浩二・河野 史知 1995 『辻町遺跡 - 2次調査地 -』松山市文化財調査報告書 第51集
- 梅木 謙一・宮内 慎一 1992 『朝美澤遺跡・辻町遺跡』松山市文化財調査報告書 第29集
- 梅木 謙一 1994 『北齋院地内』『齋院島山』『齋院の遺跡』松山市文化財調査報告書 第43集
- 梅木 謙一 2001 『齋院の遺跡Ⅱ』松山市文化財調査報告書 第80集
- 梅木 謙一 2005 『南江戸桑田』『大峰ヶ台6次・8次』『北齋院』『宮前川流域の遺跡』松山市文化財調査報告書 第102集
- 梅木 謙一 2006 『大峰ヶ台遺跡3次調査』『南江戸客谷遺跡』『大峰ヶ台遺跡Ⅲ』松山市文化財調査報告書 第110集
- 大滝 雅嗣 1987 『宮前川遺跡』愛媛県埋蔵文化財報告書
- 栗田 茂敏 1995 『大峰ヶ台遺跡 - 第4次調査 -』松山市文化財調査報告書 第48集
- 栗田 茂敏 2007 『大峰ヶ台遺跡 - 第10次調査 -』松山市文化財調査報告書 第119集
- 栗田 正芳ほか 1995 『第10・11次』『古照遺跡』松山市文化財調査報告書 第47集
- 作田 一耕 1998 『齋院・古照』愛媛県埋蔵文化財発掘調査報告書 第67集
- 高尾 和長 1998 『大峰ヶ台遺跡Ⅱ - 第9次調査 -』松山市文化財調査報告書 第62集
- 武正 良浩 1994 『北齋院地内遺跡』『齋院の遺跡』松山市文化財調査報告書 第43集
- 中野 良一ほか 2004 『南齋院土居北遺跡・南江戸圃目遺跡2次調査』愛媛県埋蔵文化財発掘調査報告書 第113集
- 名本 二六雄 1975 『岩子山古墳』松山市教育委員会
- 西尾 寺則・栗田 茂敏 1986 『宮前川遺跡』松山市教育委員会・松山市文化財調査報告書 第18集
- 西田 栄 1986 『津田山古墳』『愛媛県史 資料編考古』愛媛県史編纂委員会
- 森 光晴ほか 1976 『御座所権現山古墳』埋蔵文化財発掘調査報告書 松山市教育委員会
- 山之内 志郎 2016 『衣山北組遺跡・谷町遺跡2次調査』松山市文化財調査報告書 第183集


A 新院烏山遺跡3次調査

B 朝美辻遺跡3次調査

- | | | | |
|-----------------------|------------------------|-----------------------|------------------------|
| ① 新産所古墳 | ② 井天山古墳 | ③ 宮前川遺跡別府地区 | ④ 岩子山古墳 |
| ⑤ 岩子山遺跡 | ⑥ 鳥越遺跡 | ⑦ 新院烏山遺跡 | ⑧ 新院烏山遺跡2次調査 |
| ⑨ 津田中学校構内遺跡1次調査 | ⑩ 津田中学校構内遺跡2次調査 | ⑪ 津田鳥越遺跡 | ⑫ 津田山古墳 |
| ⑬ 北草院地内遺跡1次調査 | ⑭ 北草院地内遺跡2次調査 | ⑮ 北草院地内遺跡3次調査 | ⑯ 北草院地内遺跡4次調査 |
| ⑰ 明善院土居北遺跡 | ⑱ 香谷古墳群 A (大縄ヶ台遺跡3次調査) | ⑲ 大縄ヶ台遺跡4次調査 | ⑳ 香谷古墳群 B (大縄ヶ台遺跡5次調査) |
| ㉑ 大縄ヶ台遺跡6次調査 | ㉒ 朝日谷1号墳 (大縄ヶ台遺跡7次調査) | ㉓ 朝日谷2号墳 (大縄ヶ台遺跡7次調査) | ㉔ 大縄ヶ台遺跡8次調査 (辻遺跡2次調査) |
| ㉕ 大池栗古墳群 (大縄ヶ台遺跡9次調査) | ㉖ 大縄ヶ台遺跡12次調査 | ㉗ 南江戸宮谷遺跡 | ㉘ 大縄ヶ台I遺跡 |
| ㉙ 明善薄葉寺 | ㉚ 明善薄遺跡1次調査 | ㉛ 明善薄遺跡2次調査 | ㉜ 朝美辻遺跡2次調査 |
| ㉝ 辻田遺跡1次調査 | ㉞ 辻田遺跡2次調査 | ㉟ 南江戸最田遺跡 | ㊱ 南江戸最田遺跡 |
| ㊲ 古岡遺跡 | ㊳ 松原古岡遺跡 | ㊴ 古岡ゴウラ遺跡 | |

第1図 調査地と周辺遺跡分布図

第2章 齋院烏山遺跡3次調査

第1節 調査の経過と組織

1. 調査の経過（第2図）

発掘調査（屋外調査）は、2016（平成28）年11月16日～2017（平成29）年2月7日の間実施した。調査は排土置き場の確保のため調査区は東区と西区に分け、西区から調査を開始した。

平成28年

- 11月16日（水）：調査地の草刈り作業を行い、調査区を設定し線引きを行う。
- 11月17日（木）：調査区にフェンスを設置し、西区から重機による掘削を開始する。排土は東側に置く。
- 11月18日（金）：重機の掘削と並行して遺構検出作業を開始する。
- 11月19日（土）：ユニットハウス、仮設テント、仮設トイレを設置し、発掘機材の搬入を行う。
- 11月22日（火）：重機の掘削が終了し掘削の結果、堅穴建物・壺棺・溝・土坑・柱穴を検出する。
- 11月24日（木）：遺構精査を行い遺構検出状況の写真撮影を行う。遺構の掘削は堅穴建物・壺棺・溝・土坑・柱穴の順に行う。
- 11月25日（金）：基準点の設置を株式会社エクセル調査設計に委託し、座標系に伴うグリッド割りを設定する。その後、遺構配置図を作成し、遺構埋土と遺構番号を記録する。
- 12月12日（月）：遺構完掘が終了し高所作業車を使用し、西区の完掘状況の写真撮影を行う。その後、遺構の完掘状況の測量作業を縮尺20分の1で行う。
- 12月19日（月）：測量作業が終了し西区の重機による埋め戻し開始する。

平成29年

- 1月5日（木）：西区の埋め戻しが終了し東区の掘削を開始する。
- 1月6日（金）：東区の掘削が終了し遺構検出作業を行う。遺構は堅穴建物・溝・土坑を検出する。
- 1月10日（火）：調査区の精査を行い遺構検出状況の写真撮影を行う。
- 1月11日（水）：2回目の基準点設置を株式会社エクセル調査設計が行い、その後3m間隔のグリッド杭を設定する。
- 1月12日（木）：SB1を掘り下げ遺物の写真撮影を行う。遺物は弥生時代後期後半の高坏形土器である。
- 1月17日（火）：SB1の周壁溝の掘り下げを行う。
- 1月18日（水）：SB1の完掘状況の写真撮影を行う。
- 1月24日（火）：調査区の北壁と東壁下に土層確認用のトレンチを入れる。
- 2月1日（水）：遺構の掘削が終了し遺構精査後、完掘状況の写真撮影を高所作業車を使用し行う。
- 2月2日（木）：遺構完掘状況の記録保存測量を行う。
- 2月3日（金）：記録保存測量を終了する。
- 2月6日（月）：トイレの汲み取りを行い、仮設トイレ・発掘機材と用電柱の撤去を行う。
- 2月7日（火）：ユニットハウスの搬出と発掘道具を撤収し、屋外調査を終了する。

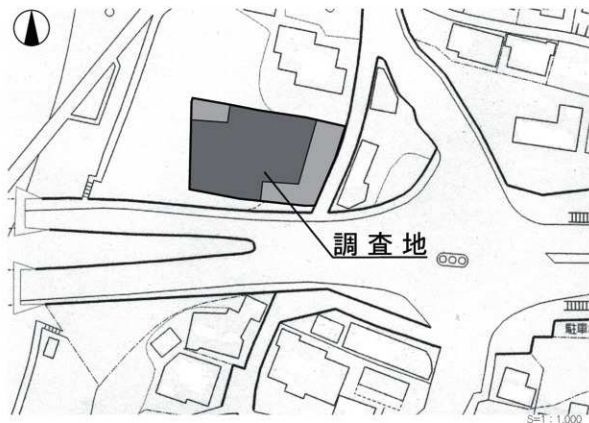
2. 調査組織

松山市教育委員会

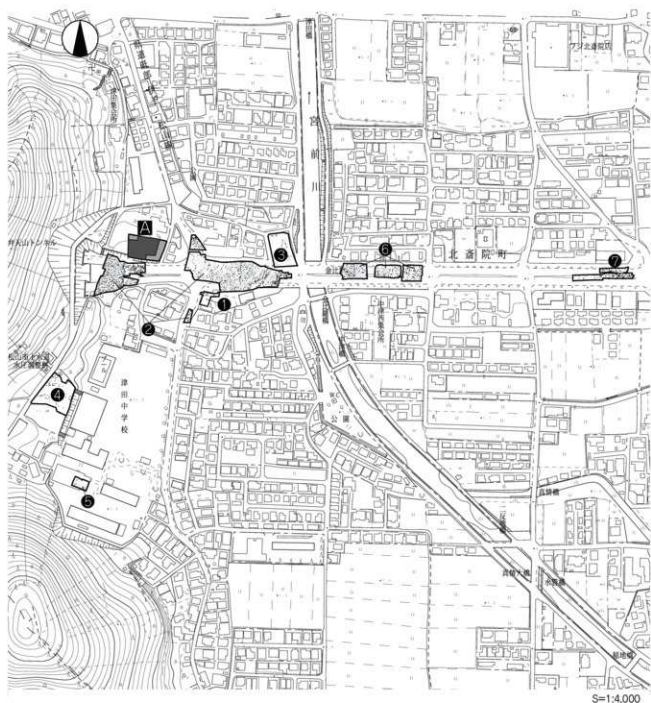
	教育長	山本 昭弘 (前任、～10月1日)
		藤田 仁 (10月2日～)
事務局	局長	前田 昌一
	次長	家串 正治
	次長	杉本 威
文化財課	課長	若江 俊二
	主幹	越智 茂樹
	主査	西村 直人

公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団

	理事長	中山 紘治郎
事務局	局長	中西 真也
	次長兼総務部長	橋 昭司
文化振興部	部長	梶原 信之
埋蔵文化財センター	考古館館長兼所長	村上 卓也
	主査	梅木 謙一 (調査・研究)
	主任	高尾 和長 (調査担当)



第2図 調査地位置図



A 斎院烏山遺跡3次調査

- ① 斎院烏山遺跡
- ② 斎院烏山遺跡 2 次調査
- ③ 鳥越遺跡
- ④ 津田中学校構内遺跡 1 次調査
- ⑤ 津田中学校構内遺跡 2 次調査
- ⑥ 宮前川北斎院遺跡岸田Ⅱ地区
- ⑦ 宮前川北斎院遺跡中津地区

第 3 図 調査地位置図と周辺遺跡分布図

第2節 調査の成果

1. 層位

調査地は、標高 120～140 m を測る。調査前は果樹園として使用されていた。

本調査では5層の土層を確認した。

I層: 灰黄褐色土 (10YR 6/2) 調査区全域で検出した。(表土)

II層: 灰黄褐色土 (10YR 6/2) に明赤褐色土 (2.5YR 5/8) 混じり。 調査区中央部の東西で検出した。

III層: 灰黄褐色土 (2.5YR 6/2) 中央部から南側で検出した。

IV層: 灰褐色土 (7.5YR 5/2) 中央部で検出した。

V層: 橙色土 (5YR 7/6) と明赤褐色土 (2.5YR 5/8) 共に粘質が強い地山。 調査区全域で検出した。

(遺構検出面)



第4図 遺構配置図

2. 遺構と遺物 (第4図)

検出した主な遺構は、竪穴建物3棟、溝6条、土坑5基、柱穴29基、壺棺1基である。遺物は遺構内と包含層から出土している。遺物には、弥生土器、土師器、須恵器がある。その数量は、遺物収納箱(600×440×320mm)4箱である。遺構の帰属時期は、出土遺物から弥生時代、古墳時代に大別できる。調査区のグリッド割りは3m間隔で行い、南北方向にA・B・C・D・E・F、東西方向に1・2・・・・・8・9と番号を付した(第4図)。調査区は斜面に位置し高低差は2.4mを測る。調査区の大部分は果樹園耕作時の掘削により遺構が破壊されている。

以下、時代ごとに遺構と遺物を取り上げて報告を行う。

(1) 弥生時代

検出した遺構は、竪穴建物3棟、土坑3基、溝3条、柱穴29基、壺棺1基である。

1) 竪穴建物

SB1(第5・6図、図版2・3・8・9・11)

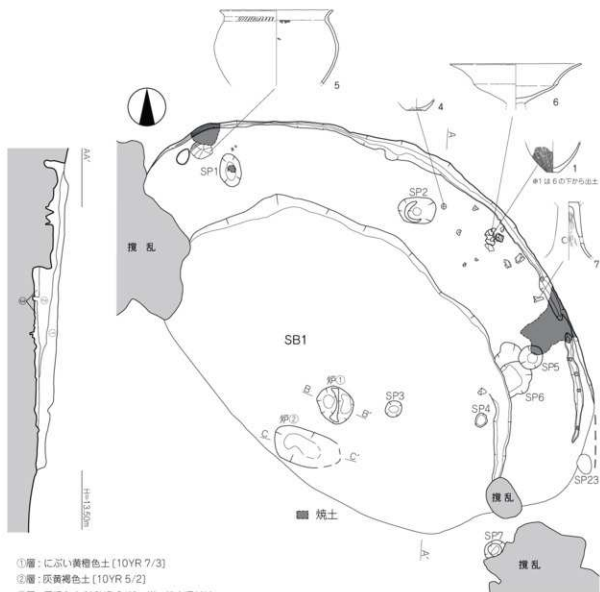
SB1はCD3～5区に位置し、西側と南東側は攪乱に切られ南側は削平を受けている。平面形態は円形で、規模は南北検出長4.56m、東西検出長7.00m、深さ14～26cmを測る。埋土は3層に分かれ①層にぶい黄橙色土(10YR 7/3)、②層灰黄褐色土(10YR 5/2)、③層黒褐色土(10YR 3/1)炭・焼土混じり、である。内部施設は、周壁溝・高床部・炉・柱穴がある。周壁溝は壁体に沿って北側で検出した。規模は幅14cm、深さ14cmを測る。高床部は壁体に平行に幅1.0～1.2m、高さ25cmを測る。炉は建物中央に2基あり、北側の炉①の平面形は、円形が2基重なった楕円形で、規模は長さ60cm、幅32～40cm、深さ7～20cmを測る。埋土は①層黒褐色土(10YR 3/1)炭混じり、②層黒褐色土(10YR 3/1)焼土混じり、である。炉②は炉①の南側に位置し、平面形態は楕円形で規模は長さ74cm、幅40cm、深さ4cmを測る。埋土は炭である。柱穴は7基検出した。SP1・2・5・7は主柱穴と思われる。SP1の平面形は楕円形で規模は径28～45cm、深さ42cmを測る。埋土は灰黄褐色土(10YR 5/2)である。SP2の平面形は楕円形で規模は径36～50cm、深さ57cmを測る。埋土は灰黄褐色土(10YR 5/2)である。SP5の平面形態は円形で、規模は径32cm、深さ47cmを測る。埋土は褐色土(5YR 5/1)である。SP7は南側を攪乱に切られる。平面形態は円形で規模は径30cm、深さ17cmを測る。埋土は黒褐色土(7.5YR 3/1)に黄橙色土(10YR 7/8)が粒状に混じる。出土遺物は弥生土器の甕形土器・高坏形土器などがある。

出土遺物(1～7)

1～7は弥生土器。1は甕形土器の底部。2は壺形土器。わずかに窪む底部。3～5は鉢形土器。3は小さな突出する底部。4はわずかに窪む底部。5は大型品で頸部に刻み目を持つ貼り付け突帯文を巡らす。6・7は高坏形土器。6は段を持ち外反する口縁部。7は柱部で円孔あり。

時期：SB1の廃棄・埋没時期は出土遺物の形態から弥生時代後期後半～末とする。

京院烏山遺跡3次調査



- ①層: にぶい黄褐色土 [10YR 7/3]
- ②層: 灰黄褐色土 [10YR 5/2]
- ③層: 黒褐色土 [10YR 3/1] 炭・焼土混じり。

※1・4・6・7はS=1:8
5はS=1:12

BB' H=13.10m



- ①層: 黒褐色土 [10YR 3/1] 炭混じり。
- ②層: 黒褐色土 [10YR 3/1] 焼土混じり。

CC' H=13.10m

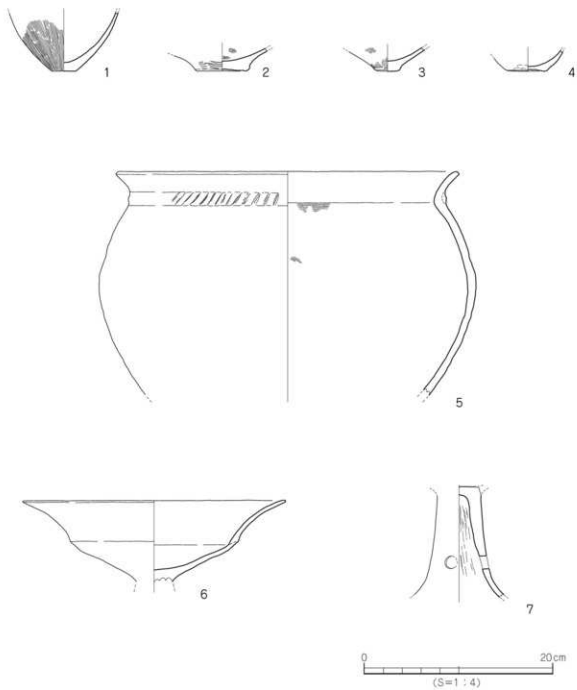


- ①層: 炭



第5図 SB1測量図

遺構と遺物

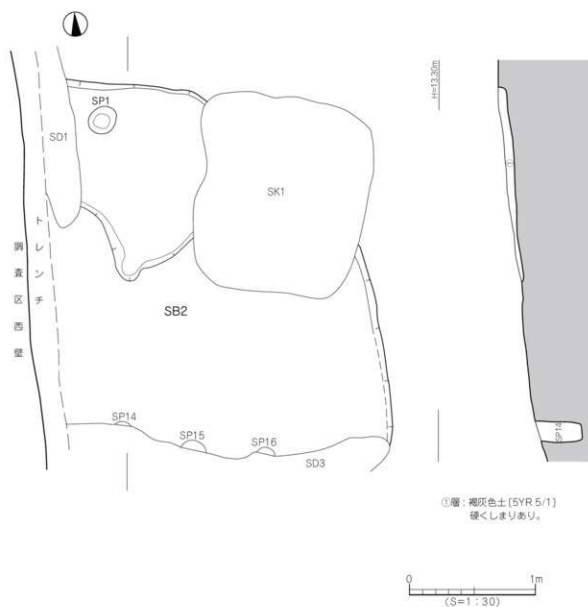


第6図 SB1 出土遺物実測図

SB2 (第7図、図版4)

SB2は調査区のCD1・2区に位置し、SD1・SK1に切れられ、南側は削平され西側は調査区外に続く。平面形態は方形で規模は南北検出長2.90m、東西検出長2.75m、深さ5cmを測る。埋土は褐色土(5YR 5/1)硬くしまりあり、である。内部施設は柱穴1基がある。SP1は建物中央部の北側に位置し、平面形態は円形で規模は径20cm、深さ37cmを測る。埋土は褐色土(5YR 5/1)である。出土遺物は弥生土器がある。小片のため図化できる遺物はない。

時期：SB2の廃棄・埋没時期は出土遺物の形態から弥生時代後期後半～末とする。



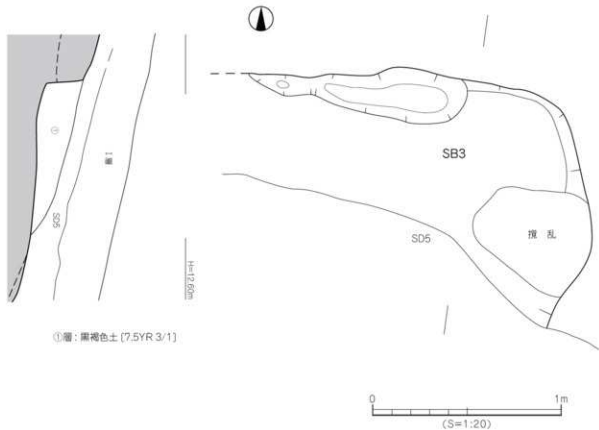
第7図 SB2 測量図

遺構と遺物

SB3 (第8図、図版4・10)

SB3は調査区のF4区に位置し上部と南側をSD5に切られ、西側は検出時に消滅している。平面形態は1か所のコーナー部を検出したことから方形と思われる。規模は東西検出長1.80m、南北検出長1.10m、深さ22cmを測る。内部施設は北部の壁下に周壁溝の一部がある。埋土は黒褐色土(7.5YR 3/1)である。出土遺物は弥生土器がある。小片のため図化できる遺物はない。

時期：SB3の廃棄・埋没時期は出土遺物の形態から弥生時代後期後半～末とする。



第8図 SB3測量図

2) 土坑

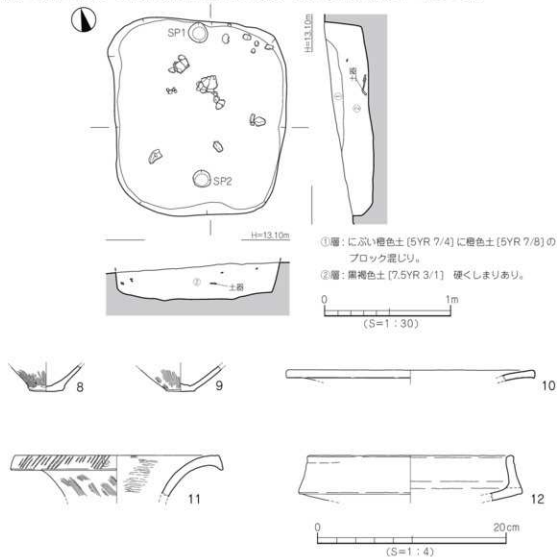
SK1 (第9図、図版4・5・11)

SK1は調査区C1・2区に位置し、SB2を切る。平面形態は方形で規模は長さ1.53m、幅1.35m、深さ17～30cmを測る。断面形態は逆台形状である。埋土は2層に分かれ①層にふい橙色土(5YR 7/4)に橙色土(5YR 7/8)のブロック混じり、②層黒褐色土(7.5YR 3/1)硬くしまりあり、である。内部施設は柱穴が2基ある。SP1は中央北壁下に位置し、平面形態は円形である。規模は径15cm、深さ9.0cmを測る。埋土は黒褐色土(7.5YR 3/1)である。SP2は中央南に位置し平面形態は円形である。規模は径14cm、深さ29cmを測る。埋土は黒褐色土(7.5YR 3/1)である。出土遺物は弥生土器がある。

出土遺物(8～12)

8～12は弥生土器。8・9は甕形土器。8は丸みをもつ小さな底部。9は僅かに突出した小さな底部。10～12は壺形土器。10は大きく開く口縁部。11は外反する口縁部。口縁端面に刻み目を施す。12は複合口縁。拡張部は僅かに内傾する。

時期：SK1の廃棄・埋没時期は出土遺物の形態から弥生時代後期後半～末とする。



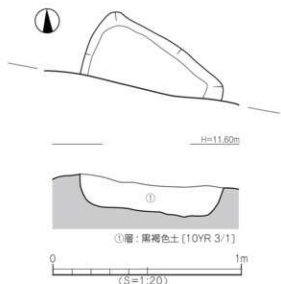
第9図 SK1 測量図・出土遺物実測図

遺構と遺物

SK4 (第10図)

SK4は調査区のF2区に位置しSD5に切れられ、南側は調査区外に続く。平面形態は1つのコーナー部を検出したことから方形と考えられる。規模は検出長80cm×35cm、深さ20cmを測る。断面形態は逆台形状である。埋土は黒褐色土(10YR 3/1)である。出土遺物はない。

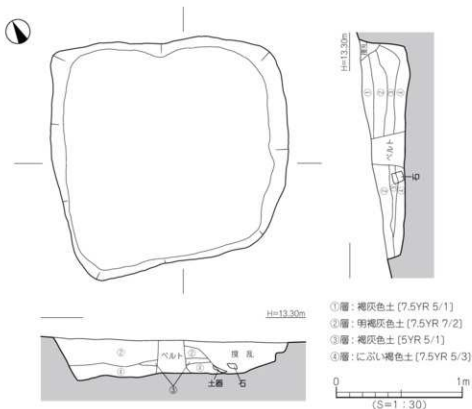
時期:SK4の廃棄・埋没時期は古墳時代のSD5に切れられ、埋土がSK1と同一であることからSK1と同じ弥生時代後期後半～末とする。



第10図 SK4測量図

SK5 (第11・12図、図版10・11)

SK5は調査区D5～E6区に位置する。平面形態は方形で規模は長さ1.89m、幅1.86m、深さ15～39cmを測る。断面形態は逆台形状である。埋土は4層に分かれ①層褐色土(7.5YR 5/1)、②層明褐色土(7.5YR 7/2)、③層褐色土(5YR 5/1)、④層にぶい褐色土(7.5YR 5/3)である。出土遺物は弥生土器がある。

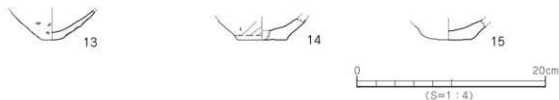


第11図 SK5測量図

出土遺物 (13～15)

13～15は弥生土器。13は甕形土器。小さく丸みをもつ底部。14・15は壺形土器の底部。14は平底。15は僅かに丸みをもつ底部。

時期：SK5の廃棄・埋没時期は出土遺物の形態から弥生時代後期後半～末とする。



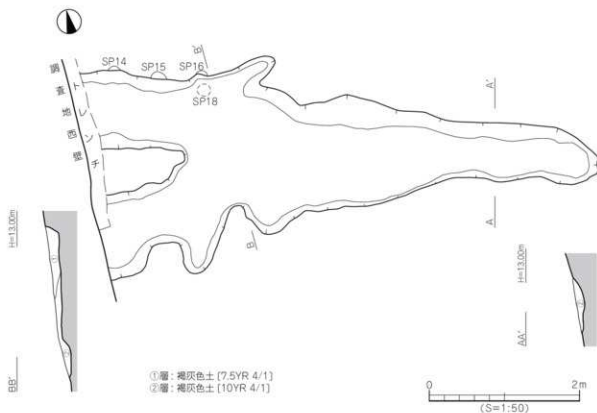
第12図 SK5出土遺物実測図

3) 溝

SD3 (第13図、図版5)

SD3は調査区のD1～E3区に位置しSP14～16・18を切り、西側は調査区外に続く。規模は検出長6.92m、幅0.75～2.2m、深さ10～15cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は2層に分層でき、①層褐灰色土(7.5YR 4/1)、②層褐灰色土(10YR 4/1)である。出土遺物は弥生土器がある。小片のため図化できる遺物はない。

時期：SD3の廃棄・埋没時期は、出土遺物の形態から弥生時代後期後半～末とする。



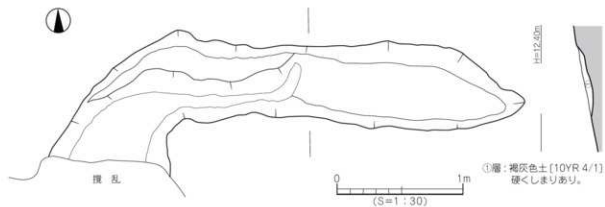
第13図 SD3測量図

遺構と遺物

SD4 (第14図、図版5)

SD4は調査区のE1・2区に位置し、E1区で南に折れ曲がり攪乱に切られる。規模は検出長380m、幅0.90m、深さ6cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は褐灰色土(10YR 4/1)硬くしまりあり、である。出土遺物は弥生土器がある。小片のため図化できる遺物はない。

時期：SD4の廃棄・埋没時期は、出土遺物の形態から弥生時代後期後半～末とする。

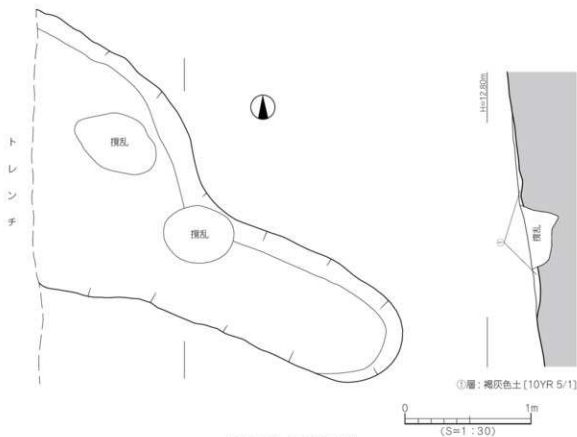


第14図 SD4測量図

SD6 (第15図)

SD6は調査区のD4～E4区に位置し攪乱に切られる。規模は検出長350m、幅2.40m、深さ5cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は褐灰色土(10YR 5/1)である。出土遺物はない。

時期：SD6の廃棄・埋没時期は、埋土がSD3と同一であることから弥生時代後期後半～末とする。



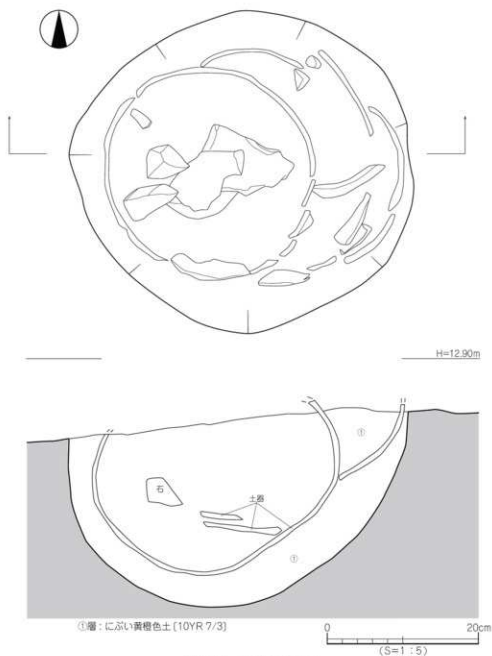
第15図 SD6測量図

4) 壺棺

壺棺 1 (第 16 図、図版 7)

壺棺 1 は調査区の D2 区に位置する。掘方の平面形態は円形で規模は径 42 ～ 45cm、深さ 24cm 以上を測る。埋土はにぶい黄橙色 (10YR 7/3) である。壺棺は壺と蓋がセットで出土した。上部は削平され約 1/2 の出土である。壺の胴部径は約 27cm を測る。壺棺は非常に脆く剝離しており、バインダー (結合剤) で土器内面を周辺の土を補強し、保存措置を行い、壺棺と周囲の土を同時に切り取り慎重に取り上げを行った。遺物は取り上げ後、周囲の土と土器を剥がす作業を行ったが、原形をとどめることができないため半裁し保存することとした。

時期：壺棺 1 の時期は弥生時代後期後半～末とする。



第 16 図 壺棺 1 測量図

(2) 古墳時代以降

検出した遺構は、土坑2基と溝3条である。

1) 土坑

SK2 (第17図、図版5・11)

SK2は調査区のE3区に位置する。平面形態は不整形で規模は長さ1.25m、幅1.16m、深さ23cmを測る。埋土は3層に分かれ①層褐灰色土(7.5YR 4/1)、②層黒褐色土(7.5YR 3/1)、③層黒褐色土(7.5YR 3/1)に浅黄橙色土(7.5YR 8/4)混じり、である。出土遺物は須恵器、土師器がある。

出土遺物 (16)

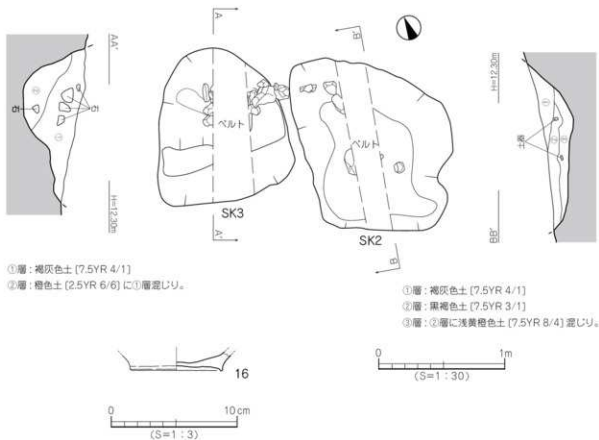
16は土師器の高台付き坏底部。

時期：SK2の廃棄・埋没時期は出土遺物から古墳時代後期とする。

SK3 (第17図、図版5)

SK3は調査区のE3区に位置する。平面形態は不整形で規模は長さ1.24m、幅1.00m、深さ45cmを測る。埋土2層に分かれ①層褐灰色土(7.5YR 4/1)、②層橙色土(2.5YR 6/6)に褐灰色土(7.5YR 4/1)混じり、である。出土遺物はない。

時期：SK3の廃棄・埋没時期は埋土がSK2と同じことから古墳時代後期とする。



第17図 SK2・3測量図、SK2出土遺物実測図

2) 溝

SD1 (第4図、図版4)

SD1は調査区のC1区に位置しSB2を切る。規模は検出長2.11m、幅0.32m、深さ12cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は明黄褐色土(10YR 7/6)である。出土遺物はない。

時期：出土遺物がないため明確な時期は不明であるが、埋土から古墳時代以降とする。

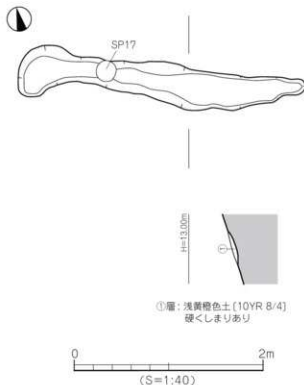
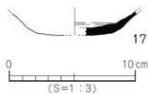
SD2 (第18図、図版5・11)

SD2は調査区のD2・3区に位置しSP17に切られる。規模は長さ3.17m、幅0.30m、深さ4cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は浅黄橙色土(10YR 8/4)硬くしまりあり、である。出土遺物は土師器、須恵器がある。

出土遺物 (17)

17は須恵器の坏身か。

時期：出土遺物が少量のため明確な時期は不明であるが、埋土から古墳時代以降とする。



第18図 SD2測量図・出土遺物実測図

SD5 (第19図、図版6・11)

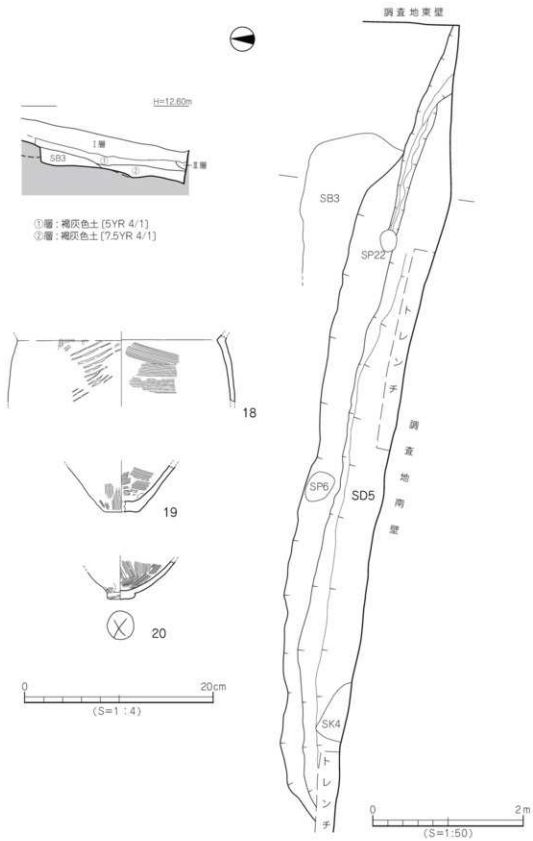
SD5は調査区のF1～4区に位置しSB3、SK4を切り東側と南側は調査区外に続く。規模は検出長10.40m、幅2.00m以上、深さ45cmを測る。埋土は2層に分かれ①層褐色土(5YR 4/1)、②層褐色土(7.5YR 4/1)である。中央南部に5～35cmの礫を多数検出した。出土遺物は弥生土器、須恵器がある。須恵器は小片のため図化できる遺物はない。

出土遺物 (18～20)

18～20は弥生土器。18・19は甕形土器。18は胴部片、19は底部片。20は鉢形土器。突出する小さな底部。外底に「X」の線刻がある。

時期：SD5の廃棄・埋没時期は、出土した須恵器から古墳時代後期とする。

遺構と遺物



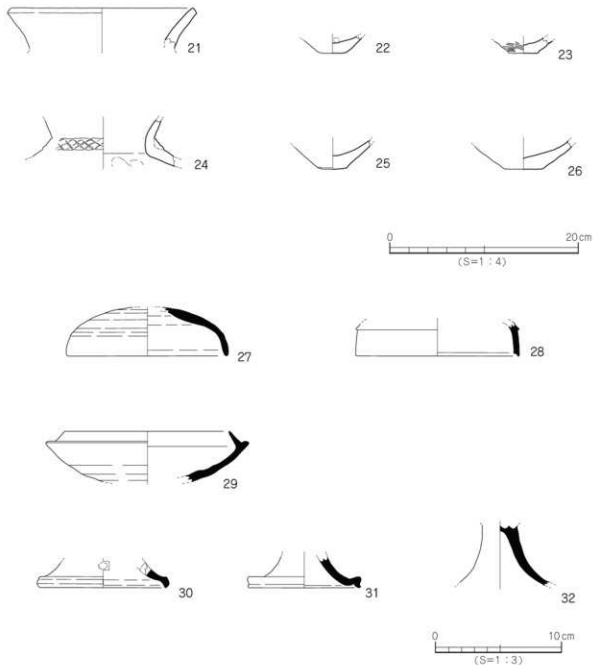
第19図 SD5測量図・出土遺物実測図

(3) 出土地点不明遺物 (21～34) (第20・21図、図版12)

21～26は弥生土器。21～23は甕形土器。21は口縁部。22・23は底部。24～26は壺形土器。24は頸部に斜格子状の刻み目をもつ突帯文を貼り付ける。25・26は底部。

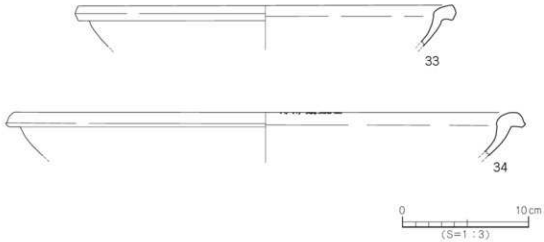
27～32は須恵器。27・28は坏蓋。27は丸い天井部を持つ。28は直立気味に接地する口縁部。29は坏身。内傾するたちあがり部を持つ。30～32は高坏。30・31は脚部。30は円形の透かしあり。31の脚端部は屈曲して接地する。32は柱部。

33・34は瓦質土器。鍋の口縁部。口縁端部は短く屈曲する。33は口縁部に煤附着。



第20図 出土地点不明遺物実測図(1)

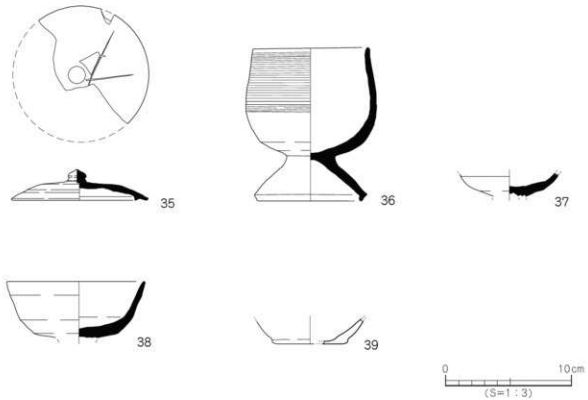
遺構と遺物



第21図 出土地点不明遺物実測図(2)

(4) 試掘調査出土遺物(35～39) (第22・23図、図版12)

35・36は試掘トレンチのT2、37～39はT4から出土した。35～38は須恵器。35は坏蓋。宝珠状のつまみ。天井部にヘラ記号あり。36は脚台付き鉢。37・38は高坏。37は坏底部。38の坏口縁部は尖り気味に丸い。39は土師器の坏底部。



第22図 試掘調査出土遺物実測図

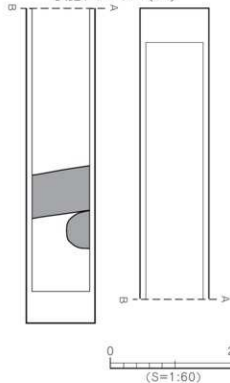
京院烏山遺跡3次調査



試掘トレンチ2 (T2)



試掘トレンチ4 (T4)



第23図 トレンチ位置図・平面図

3. まとめ (第24図)

本調査では、弥生時代後期と古墳時代の遺構・遺物を確認した。検出した主な遺構には、弥生時代後期後半の竪穴建物3棟・土坑3基・溝3条・壺棺1基、古墳時代後期の土坑2基・溝1条がある。

注目する遺構は竪穴建物SB1である。SB1は弥生時代後期後半で、平面形態が円形で、規模が径7mを測る。内部施設には幅1mの高床部を持ち、中央部に副次的炉(2か所の炉)を持つ。この副次的炉を持つ竪穴建物は平野内では数少なく、松山平野では宮前川北斎院遺跡岸田Ⅱ地区に2棟、東本遺跡2次調査に2棟、東本遺跡4次調査に4棟の計8棟が報告されているにすぎず副次的炉が検出されるのは、現在のところ松山平野では東本遺跡がある桑原地区と斎院鳥山遺跡がある斎院地区に限られているのである。今後は資料の追加を待ち、副次的炉が松山平野の斎院地区と桑原地区の一部地域の独自のものか検討していく必要がある。

斎院鳥山丘陵の集落

本調査地が位置する斎院鳥山丘陵部の遺跡には、斎院鳥山遺跡・鳥越遺跡・津田中学校構内遺跡の調査が行われている。これらの遺跡について「斎院の遺跡Ⅱ」の報告書の中で弥生時代から古墳時代の集落の検討が行われている。この中で弥生時代は2時期(弥生時代前期末～中期初頭と弥生時代後期末～古墳時代初頭)、古墳時代は5世紀後半から6世紀の古墳時代後期の1時期の集落が確認されている。

①弥生時代前期末～中期初頭の集落は、丘陵南東部に位置し2条の環濠が巡り、環濠に挟まれた場所に土坑(貯蔵穴)が存在している。竪穴建物は検出されていない。(斎院鳥山・斎院鳥山2次・鳥越)

②弥生時代後期末～古墳時代初頭の集落は、南側と西側丘陵部の斜面と宮前川に近い東側の低地の2か所に集落が展開する。(斎院鳥山2次・津田中学校構内1次・鳥越)

③古墳時代の集落は、丘陵南側の東傾斜地に立地している。(津田中学校構内1次)

なお、津田中学校構内遺跡2次調査からは、古墳時代後期以降とされる畦畔や柱穴は検出されているが、明確な時期特定はなされていない。

本調査地は、丘陵部の西、斎院鳥山遺跡2次調査の北側に位置する。検出した遺構は②弥生時代後期末と③古墳時代後期の2時期である。この2時期の遺構を検出したことにより弥生時代後期末～古墳時代後期の集落が、丘陵部の北側に広がることが確認できた。丘陵部斜面には弥生時代後期末～古墳時代後期の集落が広く展開するという過去の成果と同様の資料が得られた。周辺の調査が進めば斎院鳥山丘陵部の集落の様相がより明確になるとと思われる。

表2 時期区分一覧

時期	遺構	遺跡名						
		鳥越	斎院鳥山	斎院鳥山2次			斎院鳥山3次	津田中学校構内1次
				1区	2区	3区		
①弥生時代前期末～中期初頭	溝(環濠)		○					
	竪穴建物			○		○		
	土坑	○						
	土器棺							
②弥生時代後期末～古墳時代初頭	溝						○	○
	竪穴建物	○		○	○		○	○
	土坑						○	○
	土器棺			○	○		○	○
③古墳時代後期	溝						○	
	竪穴建物							○
	土坑						○	○
	土器棺							○

【参考文献】

- 「斎院の遺跡」1994 松山市文化財調査報告書 第43集
「斎院の遺跡Ⅱ」2001 松山市文化財調査報告書 第80集
「斎院・古畑」1998 愛媛県埋蔵文化財調査センター 総報9-3

遺構一覧

遺構・遺物一覧 — 凡例 —

- (1) 以下の表は、本調査地検出の遺構と出土遺物の計測値及び観察一覧である。
 (2) 出土遺物観察表の各掲載について

法量欄 () : 推定復元値

調整欄 土製品の各部名称を略記した。

例) ㊦→天井部、㊧→底部

胎土・焼成欄 胎土欄では混和剤を略記した。

例) 石→石英、長→長石、金→金ウシモ、密→精製土。

() 中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例) 石・長 (1~4) →「1mm~4mm 大の石英・長石を含む」である。

焼成欄の略記について。

◎→良好、○→良、△→不良

表3 竪穴建物一覧

竪穴 (SB)	地区	平面形	規模		内部施設	埋土	出土遺物	時期	備考
			長径×短径×深さ (m)						
1	CD3~5	円形	(7.00) × (4.56) × 0.14 ~ 0.26		伊・高床部、 柱穴、 周壁溝	①に赤褐色土(G5YR 7/3) ②灰黄褐色土(G0YR 5/2) ③黒褐色土(G0YR 3/1)	弥生土器	弥生時代 後期後半~末	複層に 切られる。
2	CD1~2	方形	(2.90) × (2.75) × 0.5		柱穴	黒灰色土(G5YR 5/1)	弥生土器	弥生時代 後期後半~末	SD1・SK1に 切られる。
3	F4	方形か?	(1.80) × (1.10) × 0.22		周壁溝	黒褐色土(G5YR 3/1)	弥生土器	弥生時代 後期後半~末	SD5に 切られる。

表4 土坑一覧

土坑 (SK)	地区	平面形	断面形	規模		埋土	出土遺物	時期	備考
				長径×短径×深さ (m)					
1	C1~2	方形	逆台形状	1.53 × 1.35 × 0.17 ~ 0.30		①に赤褐色土(G5YR 7/4) に橙褐色土(G5YR 7/8)の ブロック状じり。 ②黒褐色土(G5YR 3/1)	弥生土器	弥生時代 後期後半~末	柱穴2基。 SB2を切る。
2	E3	不整形		1.25 × 1.16 × 0.23		①黒褐色土(G5YR 4/1) ②黒褐色土(G5YR 3/1) ③黒褐色土(G5YR 3/1) に浅黄褐色土(G5YR 8/4) 混じり。	須恵器 土師器	古墳時代 後期	
3	E3	不整形		1.24 × 1.00 × 0.45		①黒褐色土(G5YR 4/1) ②橙褐色土(G5YR 6/6)に 黒灰色土(G5YR 4/1) 混じり。	なし	古墳時代 後期	
4	F2	方形	逆台形状	(0.80) × (0.35) × 0.20		黒褐色土(G0YR 3/1)	なし	弥生時代 後期後半~末	SD6に 切られる。
5	D5~E6	方形	逆台形状	1.89 × 1.86 × 0.15 ~ 0.09		①黒褐色土(G5YR 5/1) ②黒褐色土(G5YR 7/2) ③黒褐色土(G5YR 5/1) ④に赤褐色土(G5YR 5/3)	弥生土器	弥生時代 後期後半~末	

京院烏山遺跡3次調査

表5 溝一覧

溝 (SD)	地区	方向	断面形	規模	埋土	出土遺物	時期	備考
				長さ×幅×深さ (m)				
1	C1	南北	レンズ状	(2.11) × 0.32 × 0.12	明褐色土(10YR 7/6)	なし	古墳時代以降	SB2を切る。
2	D2・3	東西	レンズ状	3.17 × 0.30 × 0.04	浅黄褐色土(10YR 8/4)	土師器 須恵器	古墳時代以降	SP17に 切られる。
3	D1～E3	東西	レンズ状	(6.92) × 0.75～2.20 × 0.10～0.15	①褐色土(7.5YR 4/1) ②褐色土(10YR 4/1)	弥生土器	弥生時代 後期後半～末	SP4～16・R を切る。
4	E1・2	東西～南	レンズ状	(3.80) × 0.90 × 0.06	褐色土(10YR 4/1)	弥生土器	弥生時代 後期後半～末	複査に 切られる。
5	F1～4	東西		(10.40) × 200 × 0.45	①褐色土(6.5YR 4/1) ②褐色土(7.5YR 4/1)	弥生土器 須恵器	古墳時代後期	SB3・SK4を 切る。
6	D4～E4	東西	レンズ状	(3.50) × 2.40 × 0.05	褐色土(10YR 5/1)	なし	弥生時代 後期後半～末	複査に 切られる。

表6 竈棺一覧

竈棺	地区	平面形	断面形	規模	埋土	出土遺物	時期	備考
				長径×短径×深さ (m)				
1	D2	円形		0.45 × 0.42 × 0.24 以上	①赤・黄褐色土(6.0YR 7/3)	弥生土器	弥生時代 後期後半～末	

表7 SB1 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) 色調 (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
1	罍	底径 残高 2.5 6.2	小さな平たい底部。	ハケ(8～9本/cm)	マメフ・ハクリ	褐色 褐色	石・長(1～3) ○		11
2	壺	底径 残高 5.2 3.2	わずかに窪む底部。	タタキ	ハケ(8本/cm)	にぶい褐色 にぶい黄褐色	石・長(1～5) ○		11
3	鉢	底径 残高 2.6 2.5	やや突出した底部。	ハケ(8～9本/cm) →ナデ	マメフ	褐色 にぶい黄褐色	石・長(1～4) ○		11
4	鉢	底径 残高 4.2 2.2	わずかに窪む底部。	ナデ	ハクリ	褐色 褐色	石・長(1～2) ○		11
5	鉢	口径 残高 (35.7) 23.6	頸部に刻み目を持つ突帯文を貼り付ける。	マメフ	ハケ(8～9本/cm)	褐色 褐色	石・長(1～6) ○		11
6	高坏	口径 残高 (27.8) 8.6	段を持ち外反する口縁部。口縁端部は尖り気味に丸い。	マメフ	マメフ	褐色 褐色	石・長(1～2) ○		11
7	高坏	残高 11.7	柱部に円形の透かし。	マメフ	マメフ	褐色 褐色	石・長(1～2) ○		11

出土遺物一覧

表8 SK1 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面/内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
8	甕	底径 3.6 残高 2.7	丸みをもつ小さな底部。	ハケ(8~9本/cm)	ナデ	暗灰色 にぶい橙色	石・長(1~2) ○	黒斑	11
9	甕	底径 3.0 残高 2.7	やや突出した底部。	ハケ(9~10本/cm)	ナデ ハケ	にぶい黄橙色 灰色	石・長(1~3) ○	黒斑	11
10	壺	口径 26.0 残高 1.1	大きく開く口縁部。	マメフ	マメフ	にぶい橙色 橙色	石・長(1~2) ○		11
11	壺	口径 21.6 残高 4.4	外反する口縁部の端面にハケ目工具 による彫み痕を施す。	ハケ(10本/cm)	ミガキ	橙色 橙色	石・長(1~3) ○		11
12	壺	口径 21.2 残高 4.8	複合口縁壺。口縁部の拡張部は僅かに 内傾する。	ナデ ヨコナデ	ヨコナデ	橙色 橙色	石・長(1~2) ○		11

表9 SK5 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面/内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
13	甕	底径 2.1 残高 3.1	小さな丸みをもつ底部。	ハケ ハクリ	ハクリ	黄灰色 にぶい黄色	石・長(1~3) ○	黒斑	11
14	壺	底径 5.2 残高 2.3	平底。	板状工具による ナデ	マメフ	黒褐色 橙色	石・長(1~4) ○		11
15	壺	底径 4.8 残高 2.0	僅かに丸みをもつ底部。	マメフ	マメフ	黒褐色 暗灰色	石・長(1~3) ○		11

表10 SK2 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面/内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
16	陶片 片	底径 7.5 残高 1.5	底部。	ヨコナデ 回転ヘラ切り	マメフ	灰白色 灰白色	白色粒 ○		11

表11 SD2 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面/内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
17	坏身	残高 1.9	底部片。	ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 灰色	密 △		11

表12 SD5 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面/内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
18	甕	残高 7.1	胴部~頸部片。	平行タタキ	ハケ(6~7本/cm)	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色	石・長(1) ○		11
19	甕	底径 3.4 残高 5.0	底部片。	ハケ(7~8本/cm)	ハケ(7~8本/cm)	暗灰色 暗灰色	石・長(1~4) ○		11
20	鉢	底径 3.0 残高 4.0	突出する小さなボタン状の底部。外面に「×」の彫刻。	ハケ	ハケ(9本/cm)	にぶい橙色 にぶい黄褐色	石・長(1~2) ○		11

京院烏山遺跡3次調査

表 13 出土地点不明遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面 内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
21	甕	口径 (19.2) 残高 4.0	口縁部片。口縁部は「コ」字状に丸い。	マメツ	マメツ	橙色 にふい黄橙色	石・長(1~3) 金 ○		12
22	甕	底径 2.8 残高 1.8	小さな平底。	マメツ。	ナデ	黒褐色 にふい黄褐色	石・長(1~2) 金 ○		12
23	甕	底径 (3.0) 残高 1.6	小さな底部。	タタキ ナデ	ナデ	にふい赤褐色 にふい黄褐色	石・長(1~3) ○		12
24	壺	残高 4.0	頸部に斜格子状の刻み目を施した突帯文を貼り付ける。	マメツ	マメツ 指頭痕	橙色 にふい黄褐色	石・長(1~4) ○		12
25	壺	底径 2.9 残高 3.0	底部。	マメツ	マメツ	灰黄褐色 明褐色	石・長(1~5) ○		12
26	壺	底径 (3.8) 残高 3.0	底部。	マメツ	マメツ	明赤褐色 にふい黄褐色	石・長(1~6) ○		12
27	坏蓋	口径 (12.7) 残高 3.9	丸みをもつ天井部。	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○		12
28	坏蓋	口径 (12.9) 残高 2.5	直立する口縁端部は内傾する面をもち窪む。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○		12
29	坏身	口径 (13.0) 残高 4.0	受部は短く水平に伸び端部は丸い。たちあがりは内傾し端部は丸い。	回転ナデ ◎回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰白色	密 長(1) ○		
30	高坏	底径 6.9 残高 2.0	脚部に円形の透かしを施す。	回転ナデ	回転ナデ	灰オリーブ色 灰色	石・長(1~2) ○		12
31	高坏	底径 6.9 残高 2.4	脚端部は屈曲して接地する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○		12
32	高坏	残高 4.8	短い柱部に「ハ」の字状に開く脚部。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 石・長(1~2) ○		12
33	罎	口径 (29.9) 残高 3.2	口縁端部は短く屈曲する。	ヨコナデ	ヨコナデ	黄灰色 暗灰黄色	微砂粒 ○	煤付着	12
34	罎	口径 (39.9) 残高 3.4	口縁端部は短く屈曲する。	ヨコナデ	ヨコナデ	黒褐色 淡黄色	微砂粒 金 ○		12

表 14 試掘調査出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面 内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
35	坏蓋	口径 (10.8) 器高 2.5 口径 1.4	かえりは口縁端部より下方に伸びる。天井部に小さな宝珠状つまみが付く。ヘラ記号あり。	◎回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ ナデ	灰色 灰色	密 ○		12
36	舞台付鉢	口径 9.0 底径 8.2 器高 12.2	「ハ」の字状に開く脚部。端部は内傾する面を持つ。底部は丸みをもち、口縁端部は尖り気味に丸い。	カネメ(5本/cm) 回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ○		12
37	高坏	残高 1.5	坏部の小片。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰黄色(自然釉)	長 金 ○		12
38	高坏	口径 (11.0) 残高 4.5	坏底部は平らで口縁部は外上方に伸び端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	浅黄色 浅黄色	石・長(1~3) 金 ○		12
39	坏	底径 (6.4) 残高 2.0	底部から体部の小片。	マメツ	ナデ	灰白色 灰白色	長(1) ○		

第3章 朝美辻遺跡3次調査

第1節 調査の経過と組織

1. 調査の経過（第25～27図）

本調査は、調査地が南北2区画に分かれていることから、南側を1区、北側を2区と区名を付して調査を進めた。以下、調査工程を略記する。

- 2月8日（月）：屋外調査を開始する。調査区の設定や安全対策などを行い、発掘機材の搬入を行う。重機にて表土掘削を開始し、同日に終了する。
- 2月9日（火）：1区・2区ともに遺構の検出作業と精査を行い、遺構検出状況の写真撮影を行う。撮影終了後、遺構の掘り下げを開始する。
- 2月10日（水）：遺構の掘り下げとともに遺構断面や平面の測量を開始する。
- 2月12日（金）：遺構の掘り下げ及び測量を終了し、遺構の精査を行い完掘状況の写真撮影を行う。撮影終了後、調査区の埋め戻しを行い、同日に終了する。
- 2月15日（月）：埋蔵文化財センターにて出土遺物の洗浄・復元作業のほか、図面や写真資料の整理作業を開始し、調査概要報告書の作成を行う。

2. 調査組織

松山市教育委員会

	教 育 長	山本 昭弘
事 務 局	局 長	前田 昌一
	次 長	隅田 完二
	次 長	家串 正治
文化財課	課 長	若江 俊二
	主 幹	篠原 昭二
	主 査	西村 直人

公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団

	理 事 長	中山 絳治郎
事 務 局	局 長	中西 真也
	次長兼総務部長	紺田 正彦
施設利用推進部	部 長	渡部 広明
埋蔵文化財センター	考古館館長兼所長	田城 武志
	主 査	梅木 謙一
	主 査	山之内志郎（調査担当）

朝美辻遺跡3次調査

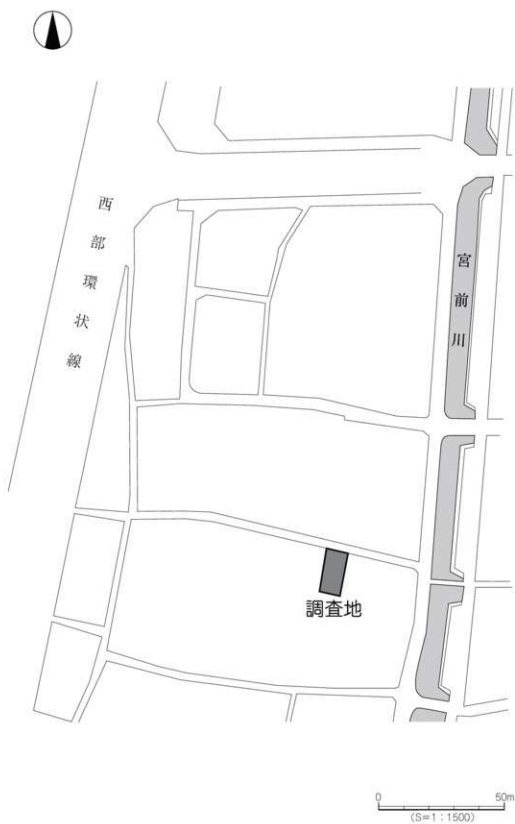


S=1:7000

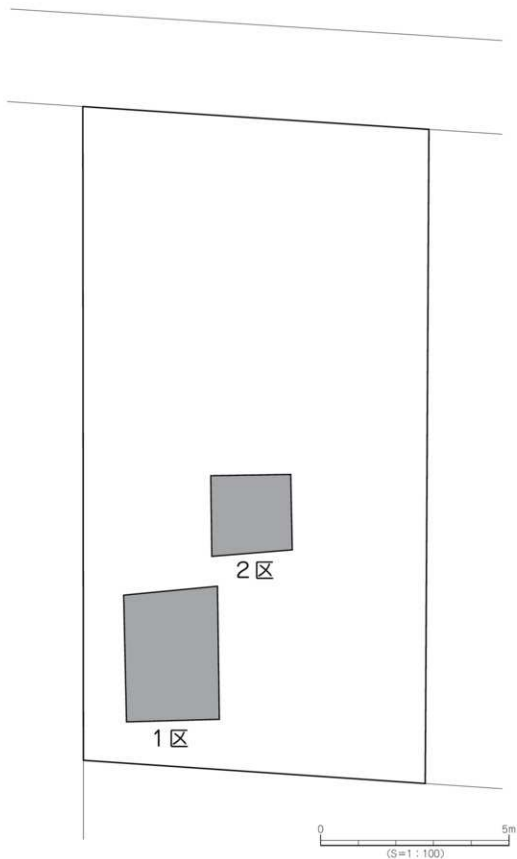
A 朝美辻遺跡3次調査

- | | | | |
|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| ① 朝美辻遺跡 | ② 朝美辻遺跡 2 次調査 | ③ 朝美澤遺跡 | ④ 朝美澤遺跡 2 次調査 |
| ⑤ 朝美澤廃寺 | ⑥ 辻遺跡 3 次調査 | ⑦ 辻町遺跡 1 次調査 | ⑧ 辻町遺跡 2 次調査 |
| ⑨ 辻町遺跡 3 次調査 | ⑩ 南江戸桑田遺跡 | ⑪ 南江戸藪目遺跡 | ⑫ 南江戸藪目遺跡 2 次調査 |
| ⑬ 古照遺跡 | ⑭ 松環古照遺跡 | ⑮ 大峰ヶ台遺跡 1 次調査 | ⑯ 大峰ヶ台遺跡 3 次調査 |
| ⑰ 大峰ヶ台遺跡 4 次調査 | ⑱ 大峰ヶ台遺跡 5 次調査 | ⑲ 大峰ヶ台遺跡 6 次調査 | ⑳ 大峰ヶ台遺跡 7 次調査 |
| ㉑ 大峰ヶ台遺跡 9 次調査 | ㉒ 大峰ヶ台遺跡 11 次調査 | ㉓ 大峰ヶ台遺跡 13 次調査 | ㉔ 大峰ヶ台Ⅱ遺跡 |

第 25 図 調査地周辺遺跡分布図



第26図 調査地位置図



第27図 調査地測量図

第2節 調査の成果

1. 層位

調査地は松山平野西部に位置する大峰ヶ台丘陵の東麓、標高約15mに立地し、調査着手時は既存建物がすでに撤去された更地の状態であった。

調査で確認した土層は4層である。

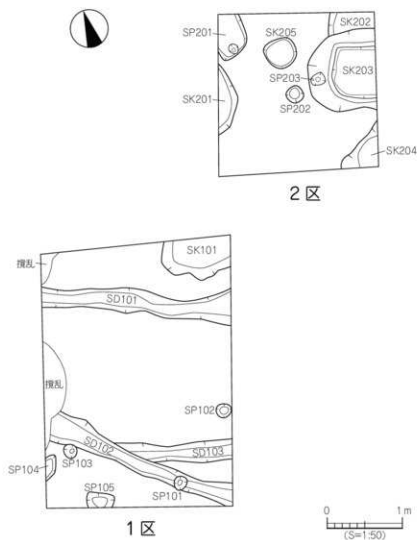
第Ⅰ層：造成土（真砂土） 厚さ40～60cmを測り調査区全域に堆積する。

第Ⅱ層：黄橙色土（10YR 7/8） 厚さ5～15cmを測りほぼ調査区全域に堆積する。

第Ⅲ層：灰黄褐色土（10YR 4/2） 厚さ5～10cmを測りほぼ調査区全域に堆積する。

第Ⅳ層：黄橙色土（10YR 7/8） 調査区全域で検出した。（地山）

遺構検出は第Ⅳ層の黄橙色土（10YR 7/8）上面で行った。



第28図 遺構配置図

2. 遺構と遺物 (第28図)

調査では、弥生時代から近世までの遺構と遺物を確認した。遺構は溝3条、土坑6基、柱穴8基を検出した。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、瓦、木製品が出土した。なお遺構番号は1区と2区で区別し、3桁の数字で表記した。以下、時代ごとに遺構と遺物の報告を行う。

(1) 古墳時代

古墳時代の遺構は土坑2基と溝3条である。

1) 土坑

SK101 (第29図、図版13)

SK101は1区北東隅に位置し、北部・東部は調査区外に延びる。平面形態は不整形である。規模は検出長0.90m、検出幅0.55m、深さ30cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、基底面はほぼ平坦である。埋土は黒褐色土(10YR 3/1)密で硬くしまりあり、である。遺物は出土していない。

時期：時期比定しうる遺物はなく、埋土がSD101～103とほぼ同一であることから古墳時代後期とする。

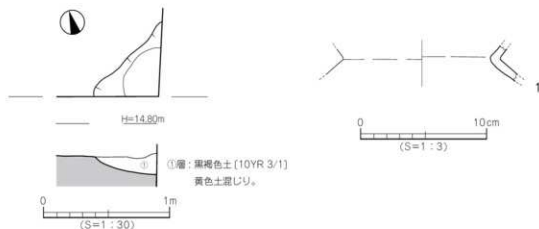
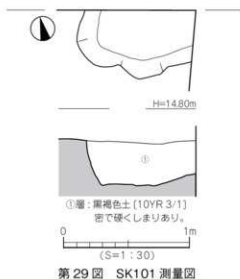
SK204 (第30図、図版4・16)

SK204は2区南東隅に位置し、南部・東部は調査区外に延びる。平面全体像は不明で規模は検出長0.60m、検出幅0.50m、深さ15cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は黒褐色土(10YR 3/1)に黄色土混じり、である。遺物は土師器が出土した。

出土遺物 (1)

1は土師器の甕の頸部片。

時期：出土遺物から古墳時代後期とする。

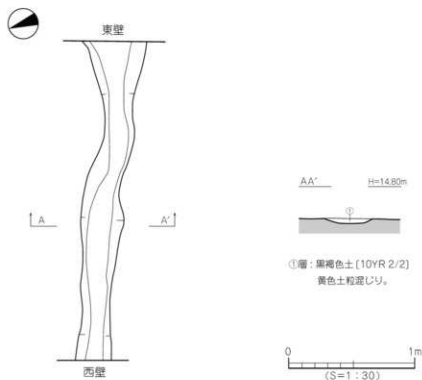


2) 溝

SD101 (第31図、図版13)

SD101は1区北部に位置し、東西両端とも調査区外に延びる。北西方向から南東方向を指向し、SD103にはほぼ並行する。規模は検出長2.50m、幅0.22～0.50m、深さ3～7cmを測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は黒褐色土(10YR 2/2)に黄色土粒混じり、である。溝底はほぼ水平である。遺物は土師器が出土した。小片のため図化できる遺物はない。

時期：出土遺物が小片のため時期は明確ではないが、埋土がSD102・103とはほぼ同一であることから古墳時代後期とする。



第31図 SD101測量図

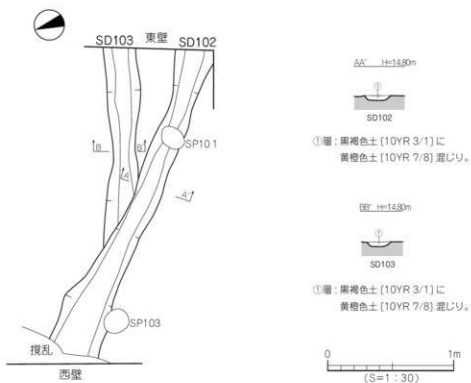
SD102 (第32・33図、図版13・14・16)

SD102は1区南部に位置し、中央部でSD103を切り、西端は攪乱により切れ、東端は調査区外に延びる。北西方向から南東方向を指向し、規模は検出長2.60m、幅0.20～0.40m、深さ5cmを測る。断面形態は皿状で溝底の比高差はなくほぼ水平である。埋土は黒褐色土(10YR 3/1)に黄橙色土(10YR 7/8)混じり、である。SD103と埋土はほぼ同一であるが、黄橙色土(10YR 7/8)の混じる割合がSD103より多い。遺物は土師器と須恵器が出土した。

出土遺物 (2・3)

2は土師器の甕。3は須恵器の坏蓋。

時期：出土遺物から古墳時代後期とする。



第 32 図 SD102・103 測量図



第 33 図 SD102 出土遺物実測図

SD103 (第 32 図、図版 13・14)

SD103 は 1 区南部に位置し、東端は調査区外に延び、西端は SD102 に切られる。北西方向から南東方向を指向し、SD101 にほぼ並行する。規模は検出長 1.50 m、幅 0.20 ~ 0.30 m、深さ 2 cm を測る。断面形態は皿状で溝底の比高差はなくほぼ水平である。埋土は黒褐色土 (10YR 3/1) に黄橙色土 (10YR 7/8) 混じりである。SD102 と埋土はほぼ同一であるが、黄橙色土 (10YR 7/8) の混じる割合が SD102 より少ない。遺物は土師器が出土した。小片のため図化できる遺物はない。

時期：出土遺物が小片であるため時期は明確ではないが、埋土が SD102 とほぼ同一であることから古墳時代後期とする。

(2) 近世

近世の遺構は土坑4基である。

1) 土坑

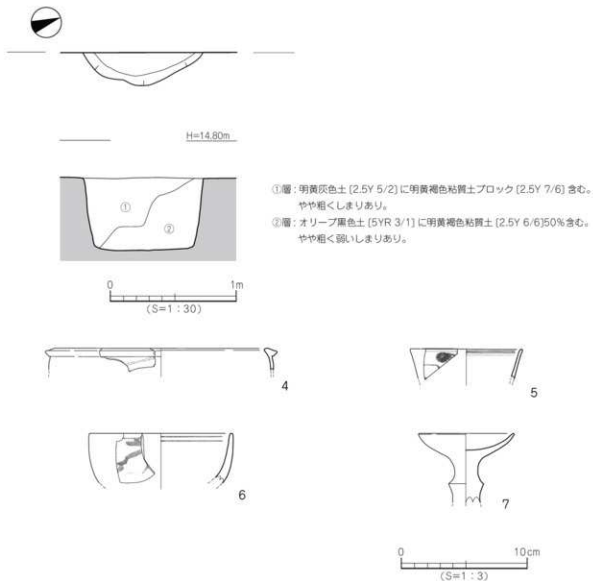
SK201 (第34図、図版15・16)

SK201は2区西端に位置し、西部は調査区外に延びる。平面形態は円形である。規模は検出長0.95m、検出幅0.25m、深さ60cmを測る。断面形態は逆台形状である。埋土は2層に分かれ①層明黄灰色土(2.5Y 5/2)に明黄褐色粘質土ブロック(2.5Y 7/6)含む。やや粗くしまりあり、②層オリーブ黒色土(5YR 3/1)に明黄褐色粘質土(2.5Y 6/6)50%含む。やや粗く弱いしまりあり、である。遺物は陶磁器と瓦が出土した。

出土遺物(4~7)

4~7は陶磁器。4は鉢。5・6は碗。7は仏具。

時期：出土遺物から近世とする。

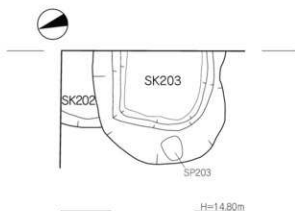


第34図 SK201測量図・出土遺物実測図

SK202 (第35図, 図版14)

SK202は2区北東隅に位置しSK203に切られ、北部・東部は調査区外に延びる。平面全体像は不明である。規模は検出長0.60m、検出幅0.30m、深さ34cmを測る。断面形態は舟底状で基底面は平坦である。埋土は灰オリーブ色土(7.5Y 4/2)である。遺物は瓦が出土した。小片のため図化できる遺物はない。

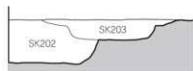
時期：出土遺物から近世とする。



SK203 (第35図, 図版14)

SK203は2区東部に位置しSK202を切り、SP203に切られ東部は調査区外に延びる。平面形態は楕円形と推定される。規模は検出長1.05m、検出幅0.90m、深さ16cmを測る。断面形態は二段掘りで基底面は平坦である。埋土は黄灰色土(2.5Y 4/1)に黄色土ブロック混じり。遺物は瓦が出土した。小片のため図化できる遺物はない。

時期：出土遺物から近世とする。



SK202：灰オリーブ色土(7.5Y 4/2)
SK203：黄灰色土(2.5Y 4/1)に黄色土ブロック混じり。

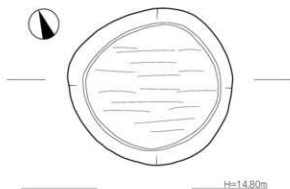


第35図 SK202・203測量図

SK205 (第36図, 図版14・15)

SK205は2区北部に位置する。平面形態は円形である。規模は長軸0.45m、短軸0.40m、深さ5cmを測る。断面形態は箱状である。側面と底面には桶棺の側板と底板が残り底面は平坦である。埋土は灰オリーブ色土(7.5Y 4/2)で掘方埋土は明青黄灰色細砂質土である。遺物は磁器と桶材が出土した。人骨は検出されなかった。小片のため図化できる遺物はない。

時期：出土遺物から近世とする。



①層：灰オリーブ色土(7.5Y 4/2)
②層：明青黄灰色細砂質土



第36図 SK205測量図

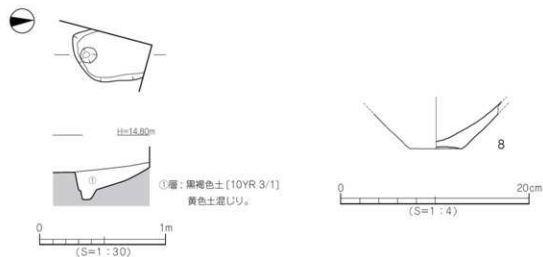
(3) その他の遺構と遺物

1) 柱穴 (第37図、図版15・16)

1区で5基、2区で3基の合計8基の柱穴を検出した。平面形態は円形～楕円形を呈しており、規模は直径約45～60cm、深さ約10～20cmを測る。埋土は黒褐色土(10Y 3/1)と暗灰色土(2.5Y 5/2)があり、遺物は弥生土器、土師器、須恵器が出土している。いずれの柱穴も、明確な時期は不明である。SP201では、弥生土器の壺形土器の底部が出土している。

出土遺物 (8)

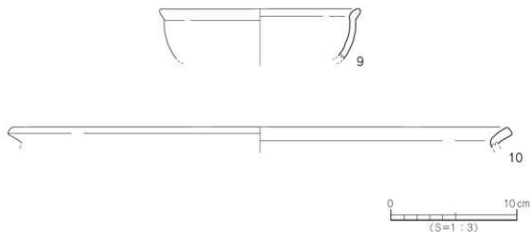
8は弥生土器の壺形土器の底部。



第37図 SP201 測量図・出土遺物実測図

2) 出土地点不明遺物 (第38図、図版16)

1区、2区の表採資料である。9は陶磁器の碗。10は瓦質土器の鍋。



第38図 出土地点不明遺物実測図

3. まとめ

朝美辻遺跡3次調査は、周辺に立地する遺跡や試掘調査の結果から、弥生時代以降の集落の範囲や構造解明を主目的として実施した。その結果、狭小な範囲の調査ではあったが、弥生時代から近世の遺構や遺物を確認することができた。以下、その成果を記す。

(1) 弥生時代

明確な遺構は未検出であるが、柱穴（SP201）からは弥生時代後期に比定される土器片が出土した。弥生土器が出土していることから、調査地周辺に弥生時代の集落が存在する可能性が高いと考えられる。

(2) 古墳時代

主に1区において溝と土坑・柱穴を検出し、6世紀初頭の土師器と須恵器が出土している。本調査地の西に位置する大峰ヶ台Ⅱ遺跡や朝美辻遺跡2次調査においても、同様の溝や同時期の遺物が出土していることから、本調査によって古墳時代後期の集落が東方向へも広がることが確認できた。SD101～103は溝の形状や方向がほぼ同一で、埋土もほぼ同一であることから同時期に存在していたと推定される。この溝の用途については、周辺の遺跡での関連を考えながら今後の課題としたい。

(3) 近世

主に2区において近世の土坑や遺物を検出した。調査区が狭小な範囲であったために土坑の形状や規模の全容が不明なものが多い。その中で削平は受けているがSK205は桶棺墓である。本資料は近世墓の研究をする上での一資料である。

本調査によって古墳時代や近世における集落を検出したことは、朝美辻遺跡周辺の各時代における集落の変遷や構造・範囲を考えていくうえで貴重な資料となるものである。

遺構一覧

遺構・遺物一覧 — 凡例 —

- (1) 以下の表は、本調査地検出の遺構と出土遺物の計測値及び観察一覧である。
 (2) 出土遺物観察表の各掲載について

法量欄 (): 推定復元値

調整欄 土製品の各部名称を略記した。

例) ⊗→天井部

胎土・焼成欄 胎土欄では混和剤を略記した。

例) 石→石英、長→長石、金→金ウシモ、密→精製土。

() 中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例) 石・長 (1~4) →「1mm~4mm 大の石英・長石を含む」である。

焼成欄の略記について。

⊙→良好

表 15 土坑一覧

土坑 (SK)	地区	平面形	断面形	規模 長径×短径×深さ (m)	埋土	出土遺物	時期	備考
101	1区	不整形	進台形状	(0.90) × (0.55) × 0.30	黒褐色土 (10YR 3/1)	なし	古墳時代後期	
201	2区	円形	進台形状	(0.95) × (0.25) × 0.60	①明褐色土 (2.5Y 5/2) ②オリーブ黒色土 (5YR 3/1)	陶磁器 瓦	近世	
202	2区	不明	舟底状	(0.60) × (0.30) × 0.34	灰オリーブ色土 (7.5Y 4/2)	瓦	近世	SK203に切られる。
203	2区	楕円形	二段掘り	(1.05) × (0.90) × 0.16	黄灰色土 (2.5Y 4/1) に黄色土ブロック混じり。	瓦	近世	SK202を切りSP203に切られる。
204	2区	不明	レンズ状	(0.60) × (0.50) × 0.15	黒褐色土 (10YR 3/1) に黄色土混じり。	土師器	古墳時代後期	
205	2区	円形	箱状	0.45 × 0.40 × 0.05	①灰オリーブ色土 (7.5Y 4/2) ②明黄灰色細砂質土	磁器 榑材	近世	榑材墓

表 16 溝一覧

溝 (SD)	地区	方向	断面形	規模 長さ×幅×深さ (m)	埋土	出土遺物	時期	備考
101	1区	北西→南東	皿状	(2.50) × 0.22~0.50 × 0.03~0.07	黒褐色土 (10YR 2/2) に黄色土粒混じり。	土師器	古墳時代後期	
102	1区	北西→南東	皿状	(2.60) × 0.20~0.40 × 0.05	黒褐色土 (10YR 3/1) に黄褐色土 (10YR 7/8) 混じり。	土師器 須恵器	古墳時代後期	SD103を切り覆瓦に切られる。
103	1区	北西→南東	皿状	(1.50) × 0.20~0.30 × 0.02	黒褐色土 (10YR 3/1) に黄褐色土 (10YR 7/8) 混じり。	土師器	古墳時代後期	SD102に切られる。

朝美辻遺跡3次調査

表 17 SK204 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面 内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
1	甕	残高 2.8	頸部の小片。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	にぶい黄褐色 にぶい灰色	石・長(1~2) ○		16

表 18 SD102 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面 内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
2	甕	口径 (16.4) 残高 2.3	口縁端部は内側に肥厚され縁を持つ。口縁端面はナデにより窪む。	ヨコナデ マメフ	ヨコナデ マメフ	にぶい灰色 にぶい灰色	石・長(1~3) ○	金	16
3	坏蓋	残高 2.3	丸みをもつ天井部。天井部に自然釉がかかる。	○回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石粒(1~3) ○		16

表 19 SK201 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面 内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
4	鉢	口径 (16.6) 残高 1.7	口縁端部は断面三角形形状。外面に白い線状の文様の一部が残る。	施釉	施釉	オリーブ黄色 オリーブ黄色	密 ○		16
5	碗	口径 (8.4) 残高 2.4	染付碗。	施釉	施釉	灰白色 灰白色	密 ○		16
6	碗	口径 (11.3) 残高 4.9	染付碗。	施釉	施釉	灰白色 灰白色	密 ○		16
7	火立て	口径 器高 (7.5) 5.5	陶磁器。仏具。	施釉	施釉	灰黄色 灰黄色	密 ○		16

表 20 SP201 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面 内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
8	甕	口径 (5.4) 残高 5.0	底部片。	マメフ	マメフ	灰黄褐色 灰黄褐色	石・長(1~3) ○	金 黒斑	16

表 21 出土地点不明遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面 内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
9	碗	口径 (15.7) 残高 4.9	口縁端部が短く外反する。口縁端部は丸い。	施釉	施釉	オリーブ灰色 オリーブ灰色	密 ○		16
10	罎	口径 (39.1) 残高 1.3	短く折れ曲がる口縁部。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰色 灰色	石・長(1) ○	金	16

写真図版

写真図版 1～12：齋院烏山遺跡3次調査
写真図版 13～16：朝美辻遺跡3次調査

写真図版データ

1. 遺構は、デジタルカメラで撮影した。一部の撮影には高所作業車を使用した。

使用機材：

カメラ Nikon D90 AF-S DX18～55mm

2. 遺物は、デジタルカメラで撮影した。

使用機材：

カメラ Nikon D610 マイクロニッコール 105mm

ストロボ コメット/CA32・CB2400

スタンド等 トヨ無影撮影台・ウエイトスタンド101

3. 製 版：写真図版 175 線

印 刷：オフセット印刷

用 紙：マットコート 110kg

三菱製紙株式会社 ニューVマット 76.5kg

【文献】『埋文写真研究』vol.1～20・『報告書制作ガイド』vol.1～6



1. 調査前状況
(西より)



2. 重機による掘削状況
(南より)



3. 調査地遠景
(南西より)



1. 西区
遺構検出状況
(北東より)



2. 西区
遺構完掘状況
(東より)



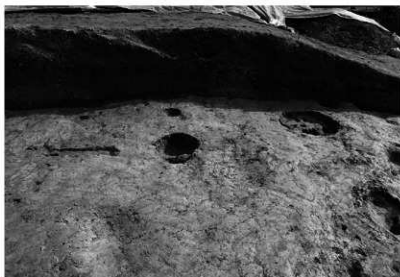
3. SB1
検出状況(西区)
(北東より)



1. SB1
完掘状況(西区)
(南西より)



2. SB1
遺物出土状況
(南より)



3. SB1 炉①・②
完掘状況
(西より)



1. SB2・SK1・SD1
検出状況
(西より)



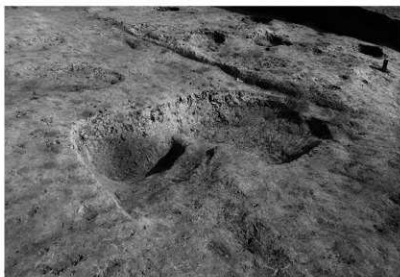
2. SB2・SK1・SD1
完掘状況
(北東より)



3. SB3
完掘状況 (西区)
(西より)



1. SK 1
遺物出土状況
(東より)



2. SK 2・3
完掘状況
(南西より)



3. SD 2~4
完掘状況
(東より)



1. SD5
完掘状況
(北東より)



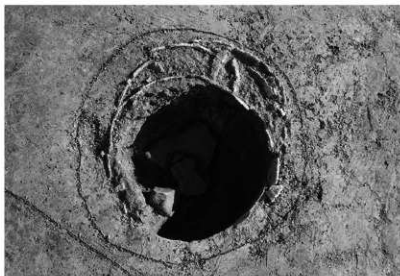
2. SD5
石出土状況
(北西より)



3. SD5
遺物出土状況
(北東より)



1. 壺棺 1
検出状況①
(東より)



2. 壺棺 1
検出状況②
(南西より)



3. 壺棺 1
完掘状況
(南西より)



1. 東区
遺構検出状況
(西より)



2. 東区
遺構完掘状況
(東より)



3. SB1
検出状況(東区)
(西より)



1. SB1
完掘状況①(東区)
(北西より)



2. SB1
完掘状況②(東区)
(南より)



3. SB1
遺物出土状況(東区)
(西より)



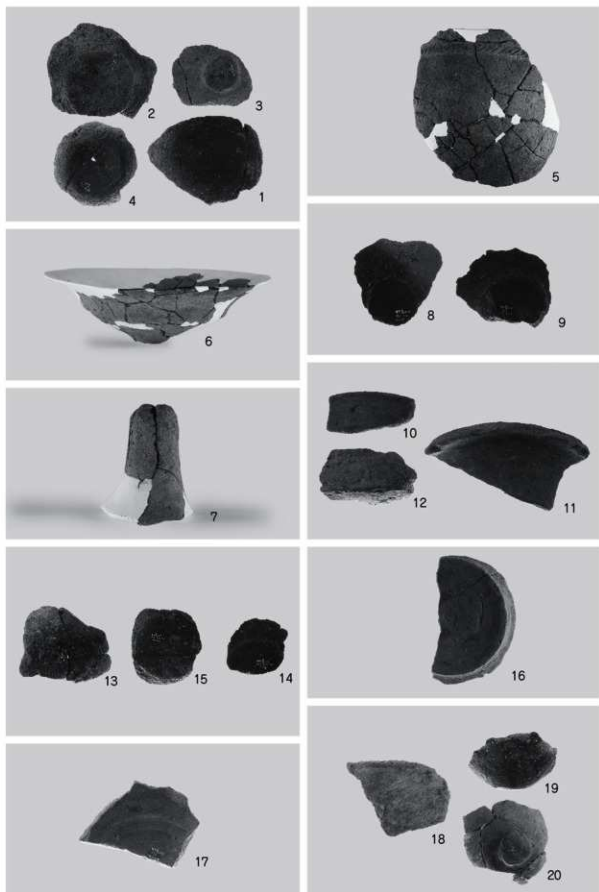
1. SB3
完掘状況
(南より)



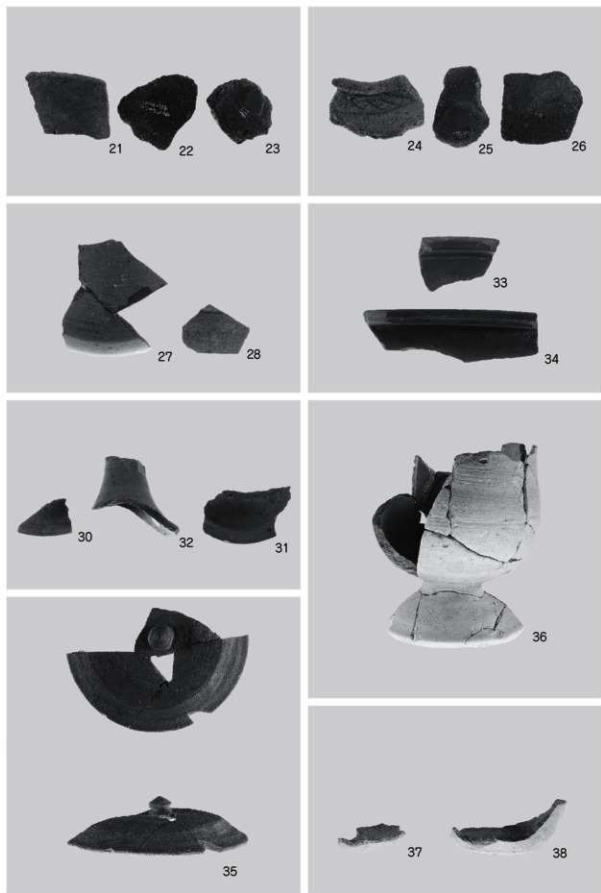
2. SK5
完掘状況
(南より)



3. 作業風景
(西より)



1. 出土遺物 (SB1 : 1~7、SK1 : 8~12、SK5 : 13~15、SK2 : 16、SD2 : 17、SD5 : 18~20)



1. 出土遺物（出土地点不明：21～28・30～34、試掘調査：35～38）



1. 調査前風景
(北より)



2. 1区
遺構検出状況
(北より)



3. 1区
遺構完掘状況
(北より)



1. SD102・103
完掘状況
(東より)



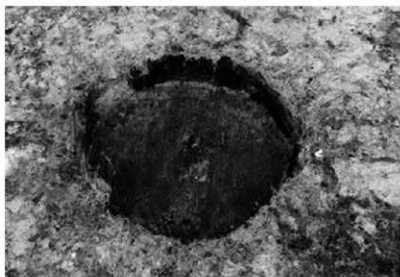
2. 2区
遺構検出状況
(西より)



3. 2区
遺構完掘状況
(西より)



1. 2区
西壁土層状況
(東より)



2. SK205
桶材出土状況
(南より)



3. 調査区
埋め戻し状況
(南東より)



1. 出土遺物 (SK204 : 1、SD102 : 2・3、SK201 : 4～7、SP201 : 8、表採 : 9・10)

報 告 書 抄 録

ふりがな	さやからすやまいせきさんじちようさ・あさみつじいせきさんじちようさ
書名	齋院烏山遺跡3次調査・朝美辻遺跡3次調査
副書名	国庫補助市内遺跡発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	松山市文化財調査報告書
シリーズ番号	第195集
編著者名	高尾和長
編集機関	公益財団法人 松山市文化・スポーツ振興財団 埋蔵文化財センター
所在地	〒791-8032 愛媛県松山市南齋院町乙.67番地6 TEL089-923-6363
発行年月日	西暦2019(平成31)年3月20日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	道路番号					
さやからすやま 齋院烏山遺跡 3次調査	まつやましほとうざい 松山市北齋院	38201	625	33° 50' 20"352	132° 43' 22"501	20161116 ↓ 20170207	519.5	個人住宅 の建設
あさみつじ 朝美辻遺跡 3次調査	まつやましあさみつ 松山市朝美	38201	608	33° 50' 37"738	132° 44' 47"335	20160208 ↓ 20160212	15.5	個人住宅 の建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
さやからすやま 齋院烏山遺跡 3次調査	集落	弥生 古墳	竪穴建物 溝、土坑、柱穴	弥生土器 須恵器	副次的炉
あさみつじ 朝美辻遺跡 3次調査	集落	弥生 古墳 近世	柱穴 溝、土坑 土坑	弥生土器 土師器、須恵器 瓦、陶磁器	桶棺墓
要 約	齋院烏山遺跡3次調査：弥生時代後期後半の竪穴建物3棟・土坑3基・溝3条・壺棺1基、古墳時代後期の土坑2基・溝1条がある。弥生時代後期後半のS B 1は中央部に副次的炉(2か所の炉)を持つ。この副次的炉を持つ竪穴建物は平野内では数少なく貴重な資料である。 朝美辻遺跡3次調査：古墳時代の土坑2基・溝3条がある。検出した古墳時代後期の遺構は、大峰ヶ台丘陵の裾部からつづく古墳時代後期の集落遺構が、本調査区が位置する東側に広がるということが判明した。				

松山市文化財調査報告書 第195集

齋院烏山遺跡3次調査 朝美辻遺跡3次調査

国庫補助市内遺跡発掘調査報告書

平成31年3月20日 発行

編 集 公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団
埋 藏 文 化 財 セ ン タ ー
〒791-8032 松山市南斎院町乙6番地6
TEL (089) 923-6363

発 行 松山市教育委員会
〒790-0003 松山市三番町六丁目6番地1
TEL (089) 948-6605

印 刷 岡田印刷株式会社
〒790-0012 松山市湊町七丁目1-8
TEL (089) 941-9111

